

56年度版
生徒会誌

しらこぼと



IV

埼玉県立越谷北高等学校
生徒会

しらばと

目 録 《第4号》

《部活動・同好会》

01	運動部・同好会	41
01	文化部・同好会	52

《専行対学》

05	生徒会・委員会	66
08	専行対学	70
08	専行対学	74
	専行対学	78
	専行対学	80
	専行対学	82



埼玉県立越谷北高等学校生徒会



《部活動・同好会》

運動部・同好会	41
文化部・同好会	52

《生徒会・委員会》

生徒会本部	66
役員一覧／各役員／行事経過	
生徒会運営の委員会	70
学校運営の委員会	74

《特集・学食をさぐる》

MENUの具体例	78
利用者の声	80
従業員の声	82

表紙 高橋康一
 中表紙 糸賀美賀子(OG)
 カット 飯塚康一／河野岳彦／高橋康一／三角俊哉
 レイアウト 新井清孝／タケ・トーシロー

目次

《あいさつ》

「しらこぼと」第4号に寄せて	…… 学校長 …… 影山増夫 ……	4
『生きているのか・死んでいるのか』	…… 前生徒会長 …… 相馬陽一 ……	6
初心忘るべからず	…… 生徒会長 …… 小池 明 ……	7

《学校行事》

しらこぼと祭	……	10
実行委員長／副実行委員長／生徒の感想	……	10
テーマ曲・青春狂想曲(ラプソディ)	……	12
歌の祭典	……	12
体育祭	……	26
実行委員長／生徒の感想／プログラム	……	
強歩大会	……	30
男女各優勝者／コース図／結果一覧	……	
修学旅行	……	36



『生きているのか、死んでいるのか』

前生徒会長 相馬陽一

僕が生徒会長に立候補した理由は、僕の親友のTくんが勝手に署名の紙を回してしまい、立候補せざるを得なくなったから、ということ、友達の間では意見が一致している。しかし、僕が立候補した本当の理由は、これとは違う。本当の理由は、僕が生徒会に対して興味を持っていたから、である。周囲の人から見れば、生徒会に興味を持つ僕の事なんて、「物好き」か「変人」ぐらいにしか見えないかもしれない。しかし、好きなものは好きなのだからしょうがない。だから、僕が二年生の時、第十二期生徒会役員選挙が公示された時には、「チャンスだ」と思った。そして丁度その頃Tくんが立候補の手筈を整えてくれて立候補するに至った、という訳である。

実際に生徒会長になってみて、まず初めに思った事は、「これは予想していたよりもかなり厳しい世界だぞ」という事だった。何かをやる度に、どこか見落としているところがあったりするし、民主的に会議で決まった事でも、その決定事項に関しての文句は、総て本部へ来るのである。おまけに何かをやって後に残るのはいつも「あの時あすればよかった」とか「どうしてあんな事しちゃったんだろう」といった、反省事項ばかりである。

しかし、そういう辛い事はかりただけに、総てがやり甲斐のある活動だった。そしてそんな、やり甲斐のある活動ばかりだったから、毎日がとても充実していた。「自分は生きてるんだぞ」という実感の様なものを感じることができたのも、生徒会長をやっていたおかげである。

十人十色という様に、人はそれぞれ違った自分のカラーを持っている。いつまでもそのカラーを大切にしていって欲しいと思う。そして、何かに自分を賭ける事のできる様な、自分自身をぶつけていける様な、そんな高校生活を送って欲しいと思う。

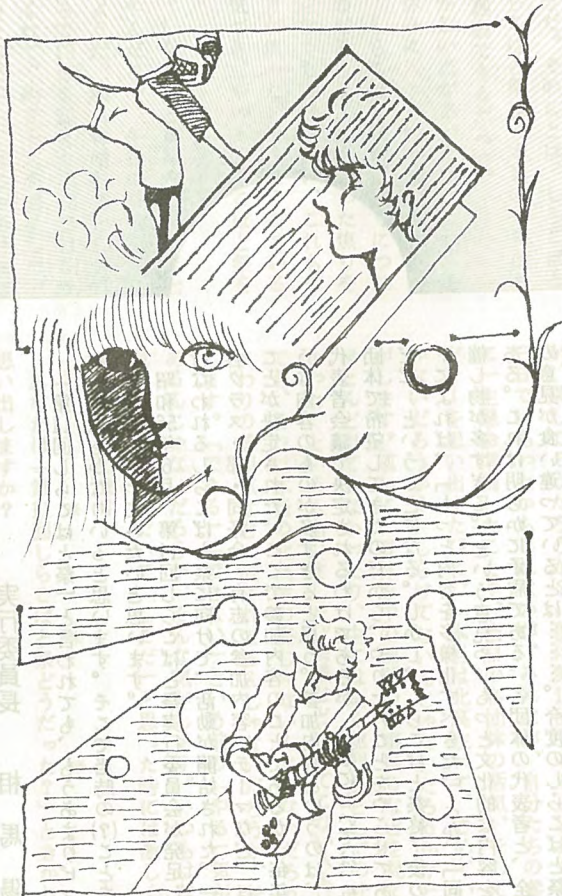
「生きているのか、死んでいるのか。」

初心忘るべからず

生徒会長 小池 明

この言葉は昔から言われているものだが、初心どおりに生きている人はあまりいないものである。いつしか時勢に流されて、初めの決意や覇気を忘れてしまうものだろう。

学校行事



しんじつしん

同様に昔から言われている言葉に「朱に交われれば赤くなる」というものがある。いつの日か、気の付いた時には環境に伍した自分がいたという訳だ。これらの言葉は、ここ越谷北高に於いては、往々にして実感できる。「むかしは、こんなはずではなかったが……。」とぼやく人はあなたのすぐ近くにいるはずだ。実は僕もそうであった。入学時、この学校で持てる力を全てを發揮してやるぞとばかりに生き生きしていた自分が既に過去のものになっているのを知ったのはつい最近の事である。そこで、奮気して選挙に出馬したわけだが……。

つまり問題は、初心を忘れた自分、なれあいで生きている自分に気付いた時の態度だ。我々は凡人であるわけだから、諺の訓戒どおりに生きることができないが、気付いたら直す努力ぐらいはできるのである。どうかあなたも、自分を振り返って、初めの自分を裏切っていないかどうか確かめてみよう。裏切っていたら、過去の自分に謝り、今の自分を戒め、未来の自分を見つけ出そう！

「しらこぼと」第4号。ここに記されている一年間は、果たして我々の初心に通じているであろうか。

しらこばと祭

56.9.12-13 テーマ「喜多」

しらこばと祭

実行委員長 相馬陽一

「第11回しらこばと祭」と言われても、もうあまりピンとこなくなつた人もかなりいると思います。そこで当時の(?)ことをもう一度ここで振り返ってみたいと思います。

昭和56年6月、第11回しらこばと祭実行委員会が発足し、9月に行なわれるしらこばと祭に向けて、活動が開始された。一学期には各クラス・部・同好会・有志の参加内容やテーマなど、ほとんどのことが決定された。ここで参加内容のことであるが、毎年、同じような内容のものが多すぎると思う。参加内容というのは、参加団体代表者会議で決定されるわけであるが、会議においては、毎年、「各団体が希望してきたのだから、やりたいことをやらせてあげるべきだ。」ということになる。しかし、しらこばと祭終了後のアンケートによれば、「もっと内容を多様化すべきだ」とか、「同じような催し物が多すぎる」という意見や、もっと文化的な内容を望む声もある。これは明らかに矛盾である。各団体の代表者と、全校生徒との意見が食い違っているとは……。今度のしらこばと祭からは、もうこういふことを繰り返さないでほしい。

各参加団体の内容が決定された頃、北高始まって以来の57の参加団体数を収めるだけの場所の問題、バンドフェスティバルでの楽器使用範囲拡大や、後夜祭でのビックアップギターの問題、中央会場

ていった。後夜祭は予想以上に盛り上がり、2日間の第11回しらこばと祭の幕を閉じた。

* * *
今の北高生は、「さめている」とか「しらけている」と言われるが、果してそうだろうか？ 僕は第11回しらこばと祭の様子——三日ではあったかもしれないが、みんなが、自分たちの参加のために一生懸命準備したことや、当日の各団体の活気、そして後夜祭など——を思い出すたびに、「本当は北高生って、さめていないんじゃないだろうか？ しらけてないんじゃないだろうか？」そんな気がします。確かに、夏休み中の部門の仕事振りなどを見てみると、ほとんど出てこなかったり、中には全く部門員としての仕事をしなかつた、という人もいました。会議などに出てこない人もいました。でも、それは本当の北高生の姿じゃないんじゃないだろうか、ただまわりの雰囲気などに流されてるんじゃないだろうか、そんな気がします。「できる」「できない」という前の「やる」気が、本当はあるんじゃないだろうか、そんな気がします。いつもはないように見せかけて、それでいて「ここだ」と思った時には激しく燃える、そんな気がします。

* * *
あなたは「第11回しらこばと祭どうだった？」ときかれて、何を思い出しますか？

での参加団体のことなど、総務局はいろいろな問題にぶつかつていた。その中でも最大の問題は、生徒の全員参加についてである。各クラスにおいて、準備などを通して全員参加が成されているかどうか……。これは、はっきり言って、成されていなかったようである。特に今回はそれが著しかったようだ。そのことは、しらこばと祭後のアンケートなどの「今年のしらこばと祭は、本当の一夜漬という感じがした」という言葉からも理解できるだろう。

このように準備の上でいろいろ難かしい点があつたが、これらを各部門で一つ一つ解決しながら、夏休みに入っていった。夏休み中はほとんど毎日準備にあけくれたが、しらこばと祭が近づくとつれて、「本当にしらこばと祭ができるのだろうか？」といった焦りを感じるようになつてきた。あれもやらなくちゃならない、これもやらなくちゃならない……。と気がかりが焦つた。そうこうしているうちに9月にはいり、どの団体も活気づき、やっとしらこばと祭を迎えることになった。

9月12日(土)、午前中は歌の祭典で、しらこばと賞はみごと一年七組が獲得した。朝から雨が降ったりやんだり、午後の一般公開にはあまり外部からは人が来なかつたようだ。明日は晴れるといいなあ、晴れてくれ、と祈るような気持ちで13日を迎えた。13日は朝から晴天で、一般客の人もかなり来てくれて、約五千人を動員した。そして四時からは後夜祭。一時は雨のために、「これじゃ絶対無理だ。」とあきらめかけていたが、わずかな望みを託して、後夜祭部門員、総務局員や、後夜祭のことなどをやってみたい、という人たちが集まり、みんなで校庭へ出て、スポンジやら雑布やらでせつせつと水出しをして、どうにか「これならできる」というところまでもつ

テ マ 曲

青春狂想曲 作詞 田村浩幸 作曲 中島 大

1. からだの なかに あるものを
2. しゅくひょうの なかに いちりやくせん

あつてくだける そうだろう/
それが若さの特権なんだ
喜びも悲しみも 自分のものさ
そうさ燃えて青春 泣いて青春

目標めざして一直線 全力を出そう
自分自身にかけてみよう
失敗はこわくない 恥がなんだ
それが若さの特権なんだ
でも自分に負けちゃいけない
そうさ燃えて青春 泣いて青春

世間に負けるな おじんがなんだ/
世界を変えるのは俺達だ
けれど青さだ だから若さだ
そうさ燃えて青春 泣いて青春

「青春狂想曲」

体の中にあるものを 全てはきだして
試してみよう 俺達自身
あつてくだける そうだろう/
それが若さの特権なんだ
喜びも悲しみも 自分のものさ
そうさ燃えて青春 泣いて青春

目標めざして一直線 全力を出そう
自分自身にかけてみよう
失敗はこわくない 恥がなんだ
それが若さの特権なんだ
でも自分に負けちゃいけない
そうさ燃えて青春 泣いて青春

世間に負けるな おじんがなんだ/
世界を変えるのは俺達だ
けれど青さだ だから若さだ
そうさ燃えて青春 泣いて青春

ああ！感動のしらこぼと賞

一七 飯降 一樹 他三名

こんにちは、一年七組です。先日としらこぼと祭の祭典で「しらこぼと賞」をいただき私達一同思わず目頭が熱くなった次第であります。

本日は、しらこぼと祭までのクラスの活動について、数カ月前の記憶を思い起こし、「あの時の感動をもう一度」の気持ちでペンをすずめて行きたいと思えます。

昨年の七月、学期末テストも終わり、やっと気分がやわらいできた頃、曲を決めました。さまざま意見が飛びかい「その曲は知らない」とかで大変苦労がありました。その中でクラス中を特にびっくりさせた人がいます。その人の名はY・K。なんと彼女は、「街角トワイライト」を知らないと言いだしたのでした。なんだかんがありました。代表者、指導者達が集まって、夏休みの練習計画を決めました。その後、代表者、指導者達が集まって、夏休みの練習計画を決めました。夏休みも終わり、本番が近づいてきてから、やっとやる気がでてきて、合唱を三部に分け、各パートでの練習が始まりました。オルガンやギターを使って音を取りましたが、なかなかあいません。歌の三パートを合わせた時などは、それはもう悲惨なものでした。しかし、私たちの血と汗と涙の努力によって何とか聞けるように

第5回 北高歌の祭典結果

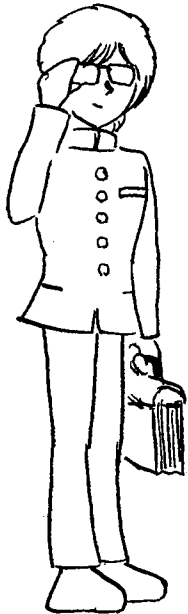
しらこぼと賞	1の7	『時代遅れの恋人たち』 ピアノ ベース ドラム トロンボーン サックス ギター
歌 唱 賞	1の1	地球の仲間
アイディア賞	3の9	ザ・ヒットパレード
ユーモア賞	3の3	渚のラブレター
熱 演 賞	3の7	長い旅
特 別 賞	3の1	なぜか 埼玉
	3の10	そして 神戸
	2の2	アサヒ生糟のCMソング (君に逢いたい)

なっていたのです。この時私たちは重大な事に気がついたので。なんと伴奏がなかったのです。幸い、我クラスには、ギター部、吹奏楽部などの部員が多勢いたのでその人たちにお願いたしました。こうして本番までの練習をしました。

そして、9月11日「輝け北高歌の祭典」の時が到来しました。私たちは、「七番」という運命的な番号を引いていました。本番の十分ぐらい前に、おもわぬハプニングが起こったのです。匿名希望とさわいでいる佐藤義之(谷原中出身)君が、どういうわけかなくなってしまいました。みんなトイレで何をしていると思ったら、なんと前の団体に混ざってステージに出てならぼうとしていました。(ドジ~~~~)

心臓は高鳴り、股間は汗ばんできます。ついに私達の出番なのです。会場がシーンと静かになります。まるで誰かがシラケたことを言ったように。(あえて名は伏せます) 前奏が始まります。みんなバナナをくわえるような大きな口をあけてうたいました。歌い終ったあとの拍手の大きさに私達はおどろき、その時の快感といったらなんとも言えないものでした……。

私達のクラスが、「しらこぼと賞」を受賞した時、私は、今までのみんなの努力がむくわれたものだと思います。私、飯降一樹は熱い涙がほほをつたうのを禁じ得ませんでした。 筆：飯降一樹他三名



歌唱賞獲得

1-1 金子 弘

「えっ、おい今、俺達のクラスの名、呼ばれなかったか。」
 「うん。確かに言った。えっ何だって、おい、歌唱賞だってよ。」
 「歌唱賞ってどんな賞なんだよ」
 「知らねえけど、きつといい賞なんだろ、とにかく騒ごうぜ」
 我々の笑顔はみんなの歓声の中に呑み込まれていってしまった。
 なんやかんや言うたかて歌唱賞獲得

「えーと今度、白小鳩祭の歌の祭典でクラスごとに歌を歌い競うことになったんですけどうちのクラスはどんな曲にしますか。」
 係の生徒の司会で話し合いが進む。
 「おい、ナツメロヒットメドレーってのもいいんじゃない『銀座カンカン娘』とかさ」

そんな話の中で結局、国際障害者年にちなんで「地球の仲間」という曲に決まった。先生が、出るからには賞をとって欲しいようなことをおっしゃってた。何しろ自分達のクラスは音楽クラスだから。曲は決まったものの、その後がなかなかうまく進行しなかった。
 「おい練習するぞー。みんな集まれよ。」
 しかし、みんなはなかなか協力してくれず、練習もろくにできなかつた。でも、何回かやっているうちにみんなも協力を惜しまないようになつてきた。

「分かってるさ」
 だれかが答えた。
 「みんな落ち着けよ。見てる奴をかばっちゃだと思えばいいんだってや」
 「本当かよ」
 と言うと、だれかが吹き出した。

「静かに」
 と係員の声。
 前のクラスが終わり、その終わりの拍手がそのまま我々のクラスの出番の拍手へとつながっていった。
 (よし、いくぞ)

「ワン・トゥ・スリー・フォー」
 「地球は今日も息をしている。街には人が流れている……………」
 * * *
 終わった。あつという間に終わった。みんな席に帰る途中、思いの会話をする。
 全部のクラスの発表が終わって、各賞の発表があった。どうせ入っていないだろうと思つたが、発表を聞いていた。いくつかの賞が発表があったがそこに我々のクラスの名は無かつた。やはりと自分は思つた。

「……………」続いて歌唱賞は一の一の『地球の仲間』
 「えっ、おい今、俺達のクラスの名、呼ばれなかったか。」

「おい、ここおかしくないか」
 「うん、でもどうやって直す。」
 「ここ合っていないんじゃない。」
 「伴奏と合っていないわよ。」
 だんだん練習に熱が入ってくるように見えた。
 そう思っているうちに発表の日がよいよ来てしまった。
 暗い体育館の中で、次々とクラスの発表がなされ、いろいろな曲が流れていく。色々な曲を聞きながらぼくは一人で考えていた。
 (このクラスなら俺達の方が、まだましだ。)
 (うんこのクラスなかなかうまいな)
 (うっなんでこのクラスこんなにうまいんだ。楽器だ。このクラスやたら楽器が多いんだ。自分達ももっと多くすればよかった。これじゃ勝ち目はないや)
 他にも上手なクラスはたくさんあった。
 (これじゃ、賞をとるなんて無理だ、でもできるだけのことはやってみよう)

ぼくはこう考えた。多分他のみんなも……………。
 「次は……………です。一のみなさんは準備をしてください。」
 とうとう来た。みんなはざわついて席を立ち、舞台の横手に回つた。前のクラスが歌っているのが見える。みんなの顔は真剣だ。ややその姿は滑稽に見えた。次は自分達があそこに立って、次のクラスにこんな風に見られるのだろうか。そんなことを考えていたら足が少しふるえてきた。
 「おいみんな落ち着けよ、リラックスするんだ。」
 だれかが言った。

「うん。確かに言った。えっ何だって、おい、歌唱賞だってよ。」
 「歌唱賞ってどんな賞なんだよ。」
 「知らねえけど、きつといい賞なんだろ、とにかく騒ごうぜ」
 我々の笑顔はみんなの歓声の中に呑み込まれていってしまった。
 なんやかんや言うたかて歌唱賞獲得

歌の祭典アンケート

- Q1 今までに練習をしましたか。
 Yes 13 No 8
- Q2 何回くらい練習をしましたか。
 0回…8 1回…4 2回…7 3回…1
 4回…1 5回…0 6回以上…1
- Q3 クラスの参加状況はどうか。
 Good 1 ふつう 8 悪い 21
- Q4 練習は充分できましたか。
 Yes 1 No 20

ギター部



我ギター部は発表の場が非常に限られてしまっている。唯一、一般の方に公開できる文化祭「しらこぼと祭」を部員一同が毎年、楽しみに待っている。しかし、その楽しみにしているコンサートも、運動部とは一味違った練習の厳しさを味わわなくては、何の意味もなくなってしまう。

一九八一年七月、私たちは恒例の合宿に出かけた。体力的にはあまり心配ないが精神的にかなり疲れるのがギター部に限らず文化部の特徴だろう。だから少しでも気をゆるめるとまいってしまう。気分がのらないといくら練習をしても効果が上がらない。まあ、この合宿の練習はほとんど文化祭のためのものと言っても過言ではないだろう。だからこれがどうい結果になるかで文化祭の成功、不成功が決まるのではないだろうか。

さて、そういうわけで合宿、夏休みの練習が終わわり、いよいよ二学期。新学期が始まれば文化祭はもう目の前だ。その忙しさには確かにまいってしまう。でもやはりその忙しさ、練習の厳しさを感じなくてはなんの感動もおこらない。それは一度経験しなくてはわからないが。

演劇部

文化祭二日目の上演も、もうすぐ終わる。この劇を発表するのは、これで三回目、そしてこれがこの劇の最後の上演なのだ。この劇、この役を演じることは、もう二度とない、と思うと力がこもる。一つの劇を完成させるたび、その劇について、いろんな思い出ができるものである。四月に一年生が入部してから五カ月間、この文化祭と、同時期行われる演劇コンクールとで演じるこの劇を作ってきた。

劇を作るのに、最初にたいへんなことは、まず脚本選びである。はやく決めなきゃ、とか言うだけで、例年どおり、さっぱり決まらない。なにをかくそう、なにも隠さないが、この劇の脚本は、一回決まった台本がボツになり、二度目に決まったものだ。たいへんな苦勞をして、一度目に決まった脚本を三十冊ほど作り上げた後のことである。「紙がもったいない」という、セコい言葉が飛びかかったが、そんなことは言っていられない。天下の演劇部は常によりよいものを目指して直進するべきだ、と、私たちは強く信じているのである。

さて、そんなことをして、配役が決定し、部員全部に台本が渡ったころは、もう七月になっていたと思う。四月に引退してしまつた三年生にも応援をお願いして、演劇部内が最も燃える時期にな

すべての準備が終わり、前日。弦を新しく張りかえる者、もう一度演奏する曲を聞き直す者、さまざまだが心の内はみんな同じ。

当日、早朝さまざまな顔で集まってくる部員たち。今まで神経がかなり敏感になっていたので声をかけるのも気がひけた。しかし、もう何も考えることはない。自分の出番を待つのみである。演奏をしている時のみんなの表情。最高。メンバーのひとりミスをするとお互い目を合わせてニヤッとする。あっ、あいつのってるな、などと思うと声をかける。ささやかなコンサートだが自分たちはそんなことどうだっていい。自分を照らすスポットライトは何よりもまぶしい。そう思うのも当然だろう。一年生は初めての文化祭。それはまた、初めての一般公開ともなれば後々残るものも大きいだろう。二年生は二度しかない文化祭コンサートの最後。それぞれの思いをのせて、つかの間の二日間が終わった。

よかつたと思う気持ちと同じくらい空しさが確かに残る。練習の時間に比べると、ほんの瞬間の本番だからそう思うのも無理はない。しかし、その時の真剣に聞いてくれていたお客さんたちの顔を思い浮べると自然と心の中で満足している。準備でも演奏でも失敗は絶えなかった。そんな失敗でも今こうして考えてみると素直にうけとめられる。高校生活に二回しかない「しらこぼと祭」。毎年いろいろな問題は起こるけれどそれを克服してこそ本当に成功したコンサートを作ることができる。今もギターはまた汗にぬれる日をひたすら待っている。

つた。

この劇は、大声で泣く、とか、狂うとか、大げさな演技をする場面が多くて、正直なところ、最初はいへん恥ずかしかった。夏休みの合宿は恐怖である。OBやOGの言う通り、泣く練習から目つきの練習、歩き方の練習までやった。

九月に入ってから、日曜日の練習はもちろん、週日は九時に家につくことがほとんどだった。新聞やテレビなんて、何週間見なかつただろう。世の中で、一体何がおこっているのか、さっぱりわからず、自分達が時代に遅れるのを感じた。それでも毎日が楽しかった。

文化祭の直前の四日間、演劇コンクールのために、私たちは、毎日出張だった。けれども、ポスターが書いていない、前日には、校内にはならなければならないし、用意もしなければならぬ。出張先では、練習する場所もない、というので、毎日、コンクールがおわるたびに、夕方六時頃、みんなで学校に行った。今年に限って、演劇部のメイン行事である二つが重なってしまった、ものすごい忙しさだった。コンクールで、自分たちの出番があった日も、燃えさかる演劇部は、しっかり学校に帰ってきた。我ながら、本当によくがんばったものだ。

ただ、たった一つ残念だったのは、クラス参加の方に、ほとんど顔を出すことができなかつたことだ。文化祭前日、出張先から急いで学校へ来てみると、教室にはだれもいなくて、ただ、きれいに飾りつけがしてあるのを見るのは、なんとなくさびしかった。

文化祭は、文化部の毎日の活動の成果を見てもらえる、大切な機会だと思ふ。去年の文化祭の発表は、かなり失敗が目立つた覚えが

ある。今年は、去年よりも、時間帯はいいし、そのせいか、観客も去年よりもずっと多い。今日は千秋楽だ。昨日の上演は、始まる時間が少しおそくなってしまったし、コンクールのあと、ということとで、実際、手を抜いたような部分もあったかもしれない。

でも、今日は成功だ。幕がおりていく。客席からは、すごい拍手……というのは、ちょっとそう。感動するほどの拍手には、冗談みたいなほど遠いが、それでもやっぱり、終わった瞬間はものすごくうれしい。いろいろな出来事が、全部思い出される時である。

文化祭が終ってから、しばらくはおっとしていた。劇が終ったあとの、いつものことだ。三年生も、また来なくなってしまって、部屋の中が広がってしまいました。

今は、淋しくなったけど、また来年、文化祭等に燃える演劇部をどうぞ見てもらいたい。

應援部

今回は夏休みの練習が八月十六日からということになった。もちろん、文化祭にむけての練習である。三年生部員は練習をサボる者が多く、思うように練習できず、団長の折原清行先輩も苦労していたようだ。八月の終わりごろ、一年部員の余興を考えると、このように、皆必死になって考えたが、その結果案としてでたのが、キング

た。

吹奏楽部

我々吹奏楽部にとって「しらこぼと祭」は演奏会、コンクールに並ぶ行事である。昨年（八十一年）の場合、多くの問題があった。当時、三年生を含めて約八十名の部員がおり、体育館のステージに全員上がるのは不可能だった。やむを得ず、部員を半分に分け、二日間のステージを交替するなど。当然練習の能率も悪かった。しかし、演出や装飾の工夫もあり評判は悪くはなかったようであった。

私たちは、音楽を楽しみ、又、多くの人にこの音楽の楽しさ、すばらしさを理解してもらうために演奏会をはじめ、数々の発表会に参加している。「しらこぼと祭」は他の発表会と違い全く音楽に関心のない人でも気軽に聴いてもらえるという点で、私たちの目的に最も適った発表の場であると思う。しかし、毎回プログラムを組むには苦労する。限られた時間で、また多くの制約の中で誰にも楽しめる曲選びと演出はたやすいことではない。お客様には老若男女、あらゆる人々がいるのであるから。しかしこのようにして部員一人一人が協力して、一つのステージを作りあげていくことも一つの魅力である。そしてたくさんの方の拍手をもらって、舞台をおりる時の充実感は格別である。

三年生にとっては最後のステージ。曲も終りに近づくと三年生の

キング・セミ・イモ虫・寿司屋・好きな人の公開・白小鳩、の六つである。この中で「好きな人の公開」というのは、まさに悲劇の余興である。前回の文化祭においてはこの私とその余興をやらされたのだが、これをやったあとしばらくは放心状態に落ち入ってしまった、相手の女性に顔を合わせられなくなってしまおうという恐るべき余興である。

さて、余興も決まり、二学期が始まってあとは本番を待つばかりとなった。自信よりも不安が大きく、落ち着かない日々が続いた。当日になってまず、予告編というものがあった。これは応援部を簡単に紹介するものであるが、わりとすんなりいったので、明日もこの調子でいけばなんとかなると思いい、その日は家に帰ってすぐに寝た。当日、いよいよ応援部の出番が近づいてくると、私達のOBが続々と集まって来た。やっぱりOBはいつ会ってもかろろくがあってその迫力におされてしまう。OBの登場で、さらに緊張感が高まって来た。そしてついに我々の出番となった。太鼓の音で幕があくと、客席は暗くて黒い玉がたくさんころがっているようにみえた。はじまってしまえばあとはあつという間に終わってしまった。そして静かに幕がとじていった。しかし、これですべてが終わったわけではなかった。新しい幹部の発表とフィナーレが残っていたのだ。でもここまでくればだ性で何もかも過ぎていった。フィナーレのフオークダンスで、三年の先輩達が一生懸命踊っていた。その顔には引退した安心感と寂しさがごちゃまぜになってあらわれていた。

我々にとって文化祭とは、部活の大きな節目である。これから応援部をリードしていかなければならないという気持ちと、あと一年で引退という寂しさがいりまじった、何ともいえない文化祭であった。目には涙といっしょに（たぶん）三年間の数々の思い出が浮かぶ。一・二年生の目にも涙が。こうして感動のうちに幕はおりる。

最近マンネリ化が叫ばれている「しらこぼと祭」。私たち吹奏楽部は常に新しい物を追求してゆく方針である。どこにでもあるような演奏だけで終わってしまうような一方通行のステージではなく、お客様にも参加できるような、会場が一つになれるような、そんなステージを目指してゆきたいと思う。そのためには、父兄の方々や先生方、生徒会などにもっと深く理解してもらいたいものである。そして「しらこぼと祭」に行ったら吹奏楽部に行かなくては「そんなふうに言われるような部を目指して努力してゆきたい」。

しらこぼと祭三位をもらって

一十 金子雅美

我々の十はしらこぼと祭で三位という賞をもらいました。ぼくたちは感動しました。ぼくたちのだし物はおばけやしきでした。これから苦しかったおばけやしきを作ったかていを書きたいと思えます。

まずお化け屋敷きをやるとういってのがバレエ部の韓国の狂人といわゆる堀江君です。理由はさわりたからだそうです。その前に映画をつくらうという話もでて、卓球部のエース金子君が主役でやるうというはずだったんですが、金がかかるとのでやめました。それでいろいろ、ダンボールを集めたりして作っていききました。

みんないっしょうけんめい仕事をしました。特にがんばったのは、狂人と私でしょう。小池さんに似ている尾形君も赤いくつきたをはいてがんばりました。サタン健君やパー小川君やホラッチョ早坂君やタゴ今井君やファイヤー寺田君もいっしょうけんめいやりました。また女とは思えない女の人もがんばりました。そういうわけで、おぼけやしきは作られていきました。みんな燃えて、いよいよ本番です。

その前に歌の祭典でぼくたちはジョニーの子守唄を歌いました。パー小川君やきぬ川温泉君や、たわら塩入君がギターをもってやり、ピアノは占いの鬼の下田さんがやりましたが結果はだめでした。

やはりこれは、私と赤いくつした尾形君とカラテマン早坂君の、ブランドグラスを歌えば優勝したと思えました。

さて、よけいな話はあるにしておぼけやしきをやる時が来ました。みんな各場所について用意はすっかりできました。しかし、客が来ません。

そして来た、と思ったら桜井小学校のガキでした。そしたらガキばかりはいつてきました。ガキッというのはどうしようもねえやろうで、ぼくたちがいろいろおどろかしているのに、「こわくねえじゃねえか。」とか「おいおぼけ出てこい。」とかいうやつがいて、どうもガキっていうのはわからないです。中にはひどいやつがいて中ものものをぶっこわすガキがいて明日からはガキを入れるのをやめようと思いがいっしまいました。次に男が入ってくるんだよねー、おぼけやしきの意味がわかってねえんだなあと感じました。だからそういうときは素通りさせました。

文化祭

二一五 益本雅行

いつもは静かな北高の校舎も、東京の街中の様に、小さな子供から大人まで各種沢山の人々によってうずもれるといったら、文化祭そう、しらこぼと祭位だと思います。その中には、沢山の出会いもあったでしょう。

ある人は昔去りし時の旧友に会って思わず胸を張って校内を案内しながら、話に華が咲いたりなんかして。

また別の人は別の人なりに自分の受け持ちに精を出して、回りの人達を喜ばせたり。

僕なんか、どちらの方ですかねえ。うちのクラスは、画廊に縦横穴埋めパズルをやったんだっただな。それでパズルの正解者には手製のかわいい布袋をあげたのでしたなあ。しかし、正解、不正解を見分ける仕事をやらされた時には、感激しました。なにせ、パズルをやっている対象が大人（青年会も含）がパリリ、後は全部小学生それも一・二年位の子なのですから、いや、まてよ、幼稚園位の子ども多かったな、うん。よって、パズルの答えが間違っていて、

「はい、間違え、残念でしたねー」

と、こちらが優しく教えてやると、

「何で？ どうして？ うそー！」

と、きます。そのたびに、いちいち説明（答えを教える）してや

明日になりました。ついに女子中・高校生が沢山かけつけてくれた。ぼくたち男共は興奮しました。なんといつたってこのおぼけやしきをやってたら他の出しものなんか見られないぜ。こういうことをやっているといろいろ勉強になりました。ふだんまじめな人が本性丸出しで変態行為をしました。特に新たに君のすごさといったら、ぼくたちは驚きました。どんどん自分専用のしかけの穴をつくって、笑みをうかべてよだれをたらしてました。またふだんからスケベ世界一といわれるシー健君のかつやくは激怒にすさまじかったです。この健君のおかげで北高生の女子はあまりはいらなかったと小川君は申しております。

ほんとうに我々は感動しました。思わず涙ぐみました。来年もやろうと誓いました。今度は大規模に男、ガキしめ出してやろうと今井君は笑顔を決やさず言っていました。

そしてさらに我々を大激怒に感激させたのは我々のおぼけやしきが三位をもらうということでした。もうやりたい放題やって賞をもらえるんだからいいかげんなものだと思いました。

また、今まで一の十はパーだパーだ、試験ができない、勉強ができないと教師共にいわれてきました。だけど一番大切なことは、こんな勉強やテニスなどというじげんの小さいものなんかよりも、ここの一番でクラスがまとまり一つの目標に向かってがんばることじゃないんじゃないでしょうか。その結果が三位という数字にあらわれたんじゃないかと思えます。勉強は今いちでもクラスのまとまりは世界一だということを、頭のかたい教師共にかかってもらえればと思う。最後はくさくさすいませんでした。

らなければなりません。それも次元を一つも二つも下げて、そう、小学校の低学年になりきらなくてはいけないのです。いじらしい女の子がいて答えを教えたあげたら、また、入口から入ってきて、解答用紙をもらって、正解な答えを持って来た子もいました。暗記する位、あのかわいらしい布袋が欲しかったのでしよう。いくら教養のない僕とはいえ、その感じがよくわかったので思わず一番かわいらしい布袋をあげちゃいました。それに比べて、小学校三・四年位のあのワンパク少年、あいつには、はつきりいってまいった。何回もしつこく来ては布袋を欲しいがる。それも本当に欲しいのではなく、この純情な私をからかっているのです。あの時点で次元がかなり下がっていた僕です。

なぜか、その後、そのワンパク少年とプロレスになり、足四の字をきめてやりました。しかしその悪ガキはこちらが手加減しているのを、よそに、かけられながら、ゲラゲラ笑っていました。ふと次元をもどした僕は仕様がなから、その悪ガキを解放してやりましたが、その後も何回か来たのでプロレスの相手をしてやりました。きっと小学校、特に低学年の先生は大変だろうと思えます。本当に。でも、今考えると人前になるほどバカなことをやってしまったと思わず赤面するなあ、まいった。そういう訳で色々やってきましたけれど今の僕が僕の一番の文化祭中のなぜか心にジーンときたものですね。

でも色々な人たちが、自分達の出し物を見たり、参加したりして加わるということは、すばらしいことです。

二日もあるから、意外と色々なことができる様でできないんですなあ。余りにも楽しすぎて自分が文化祭の中で何を一番やりたかつ

たか、わからなくなっちゃうのかも知れません。一部の人達には、今いち、悔いの残る何か、すっきりしないものになってしまうのかもしれないですね。

そういう意味で私は二日目の夕日のキャンプファイヤーは、大事だと思っんですね。大みそかに、どこかの寺か神社でも、その年の、お守りか、やくよけなどを持ってきて、燃やしてもらおう行事があるでしょう。そして、その年が無事終わり、新しい年が始まる。私もその様な内容を言いたいのです。当然火を使う訳ですから、回りが明るいのでは、迫力も何も、これは無いですね。まきが燃えつきるまでとは言いませんが、みんなの心が燃えつきる位までは、火を消さないで欲しいですね。

やあ、本当、すっきりしたなあ、とにかく去年の文化祭は、なぜか小学校の先生になった様なプロレスの鬼コーチになったような、楽しかったのか、はたまた、はずかしかったのかわからない、複雑な気持ちのした、僕でありました。

初めてのしらかばと祭

副実行委員長 風見 隆

「これより、第十一回しらかばと祭を開催いたします。」

この少し緊張した言葉から始まったしらかばと祭、一年生の副実行委員長ということで、随分と苦労をした。何せ、全てが初めての仕事である。生徒会の先輩方が手取り足取り教えてくれなかったな

この仕事で得たものは大きいですが、一つでも心残りになるものがあることは、さびしくさえ思えた。

私のしらかばと祭

副実行委員長 W・S

しらかばと祭。自分が三年生になってしまっって、もう北高の生徒として参加できなくなっった今、とても懐かしい響きを持った言葉。ある意味で私の人生まで変えてしまった、そんなしらかばと祭について個人的に好き勝手な事を書かせてもらいます。

私がしらかばと祭に参加したのは、一年の時、クラスの友達とお化け屋敷の墓やら何やらを作った時からでした。二年の時は、前生徒会長の相馬君と学芸委員会に何も知らずに入っってしまい、夏休みをほぼ返上して、彼は装飾部門でゲート作り。私は編集部門でパンフレット作りに精を出し、それなりにしらかばと祭を楽しんでいました。そして三年になった時に生徒会長になっていた相馬君は、「あんな学芸委員長やりなよ。」などと、どの委員会に入るかも決めていない私に言ってきて、私も私で「いやいや。」などと言いつながら、すっかりその気になっていました。果して学芸委員長となり、おだてられた私は第11回しらかばと祭副実行委員長という大役まで引き受けてしまったのです。それから次第に身のまわりが慌しくなっっていききました。学芸委員の部門分けに始まり、各部門長との予算についての話し合い、テーマの決定など、ほんの一部しか書けない(実は

ら、どうなっっていたか分からないところも少なくなっったので、もしかしたら副実行委員長なんて、名前ばかりのものだったかも知れないとさえ思えてくる。が、それでもそれなりにやれるだけやった満足感はある。

たとえば、夏休みはほとんど毎日のように登校して仕事をしした、当日二・三日前になると平均二〜三時間、前日は三〇分の仮眠で仕事をやり通したし、また、後夜祭のために夜中校庭の水取りをして、教頭先生に怒られながらも雨中作業を徹した。この時の夜明けは、とてもきれいに見えたものだった。そして後夜祭が無事行われたときは、本当にうれしかった。

今思うと、その苦労もまるで夢か何かのように思えてくる。はつきりと胸の中に残っっていないのである。ただ一つのことを除いて、それは、後夜祭が終わった時のことだった。

疲れのためか、ただぼんやりとしていた時、生徒会の先輩が泣いているのを見て、思わずハッとした。その時はじめて「終わった」ということが分かり、そばにいた役員の手を握った。それからしばらくして、総務局長が一つの部屋に集まり、成功を喜び合っているとき、涙が止まらなくなっったことを覚えている。あの涙は生まれて初めて味わった涙だった。そのことだけは、いつまでも忘れないと思う。

ただ残念なことに、クラスの一員としては、十分な協力が出来なかった。クラスの方も出来る限りはやっつつもりだが、それは自分の時間の中での話でしかない。唯一人、クラスの仲間と離れてしまっような感じがしたのは、仕事のつらさよりも、さびしいものだった。

覚えていない)けど、その一つ一つがしらかばと祭を造り上げていく、そんな感じでした。

それでは、少ししか覚えていないその中から、いくつかの秘話を紹介します。

最初は、一番良く覚えている、というより忘れられない参加団体代表者会議での事件。使用会場について話し合っていると、自分達の教室から他の教室に移動させられた団体が何やらゴネ出し、他の代表者も話をませかえすようなことを言い出したので、元来気の短い私が、逆上して彼らを怒鳴りつけてしまったという出来事です。あの時私に怒鳴られた人、どうも失礼しました。忘れて下さい。

次にゲート製作について。今回のゲート、だいぶ力作だったと思うんですがいかがですか? 装飾部門員の集まりが非常に悪く、少人数でこつこつ作り、当日の朝にやっとな出来たゲートに、特別愛着を感じました。文化祭の一週間前程から、朝は四時起き、夕方は六時過ぎまで、ペンキで手を汚してよくがんばっってくれました。装飾部門長の嶋田繁君、ご苦労様。来年もよろしく。

それと大変だったのが招待券。越谷北高の字を入れ忘れてしまっ四千枚近くに越谷北高というゴム印を押したのも今となっては良い思い出となりました。

最後はやっぱり後夜祭関係でしょう。前日の夜中の大雨に気付いた人が何人位いるでしょうか。今年も神話は作られたのです。学校側から訓戒を受けたので詳しく書けないのが残念です。(ヒント、朝から砂を撒いただけでは校庭は使えなかつたのです。)わかりましたか? わからなかつたら関係者に聞いてみて下さい。きつと目を輝やかかせて得意顔で話してくれますから。あ、それから、前生徒会長

しらこぼと祭アンケート

先日行われたしらこぼと祭についてのアンケート集計結果が出ました。これを生かし、次回のしらこぼと祭を成功させるため、よく検討して下さい。

- Q 1. 今年のしらこぼと祭の時期はどうでしたか。
 適当 60.9% 早い 28.3% 遅い 8.2% わからない 2.4%
- Q 2. テーマを知ったのはいつでしたか。
 7月 55.6% 6月 18.1% 9月 17.3% 8月 7.1% 今だに知らぬ 1.9%
- Q 3. しらこぼと祭への参加を通してクラスのまとまりは強くなったと思いますか。
 思う 64.3% 思わない 31.9% わからない 3.8%
- Q 4. テーマ曲について…
 (1) テーマ曲は歌えましたか。
 歌えなかった 55.5% ほぼ歌えた 31.7% 歌えた 12.7% 無 0.1%
 (2) 来年もあった方が良くと思いますか。
 はい 66.0% いいえ 34.0%
 “はい”と答えた人：テーマ曲は毎回新たにつくるべきだと思いますか。
 はい 81.0% いいえ 19.0%
 (3) 今年のテーマ曲はどうでしたか。
 わるい 33% よい 30.9% ふつう 25.6% その他 10.5%
- Q 5. 歌の祭典について…
 (1) 練習は十分にできましたか。
 いいえ 73.8% はい 25.9% その他 0.3%
 (2) 練習を通してクラスのまとまりはできたと思いますか。
 はい 54.7% いいえ 44.2% その他 1.1%
 (3) 各クラスから審査員を出したことはどうでしたか。
 よかった 90.1% よくなかった 9.9%
- Q 6. 中央会場は見ましたか。
 見た 53.6% 見ない 46.4%
- Q 7. 販売について…
 (1) 販売団体は9団体ありましたが数はどうでしたか。
 ちょうどよかった 53.0% 少ない 37.3% 多い 9.7%
 (2) しらこぼと祭内で今後販売したいものがあったら、買いたいものがあったら書いて下さい。
 古本、おでん、電化製品、楽器、インスタントでない食べ物、文具等
- Q 8. 今年のしらこぼと祭のV.T.Rを放映した方が良くと思いますか。
 した方がよい 54.3% どちらでもよい 38.8% しない方がよい 6.9%
- Q 9. 後夜祭について…
 “後夜祭”に参加しましたか。
 した 63.8% しない 36.2%
 感想を書いて下さい。
 よかった 73.7% わるかった 14.3% ふつう 4.9% その他 7.1%
- Q 10. 招待券の販売方法は次のうちどちらが良いと思いますか。
 現金と引き換え 60.3% 前払 39.7%
- Q 11. パンフレットのページ数はどうでしたか。
 ちょうどよい 47.2% 少ない 51.6% 多い 1.2%
- Q 12. バンドフェスティバルについて…
 (1) バンドフェスティバルはやって良かったと思いますか。
 はい 88.0% いいえ 12.0%
 (2) 1グループの時間はどうでしたか。
 見ないで分からない 40.5% ちょうどよい 34.8% 短い 21.7% 長い 3%
 (3) バンドフェスティバルを催す際の条件についてどう思いますか。
 ○エレキギターの使用がバンドフェスティバル会場のみに限られたこと。



の相馬君は熱を出してその作業に出られませんでした。
 しらこぼと祭を思いっきり楽しんだ私から後輩諸君へ。しらこぼと祭というのは他人に御膳立てをしてもらうのではなく、自分達で楽しむものです。教師がうるさい、生徒会が役に立たないと嘆く前に何かの組織に入ってみたらどうですか？ 実行委員をやれとは言いません。例えば、クラスのお化け屋敷の幕作り、そんなものでいいんです。それで十分楽しむ事ができます。しらこぼと祭ってそんな簡単な事の集合であれだけ大きな行事になってしまっているのだから。最後に、しらこぼと祭実行委員会副実行委員長として一言。関係者の皆さん、ご苦労様でした。ありがとうございます。

※注…… P25 (アンケートのつづき)

- よい 34.8% わるい 17.2% ふつう 10.3% その他 39.1%
- Q 13. 今年の装飾はどうでしたか。
 よい 49.7% ふつう 32.7% わるい 14.1% その他 3.5%
- Q 14. “広報しらこぼと”の内容について…
 わるい 36.9% よい 35.6% ふつう 11.3% その他 16.2%
 “広報しらこぼと”の発行部数について…
 ちょうどよい 55.8% 多い 25.7% 少ない 18.5%
- Q 15. 今年のクラス賞について…
 (1) 知ったのはいつ頃でしたか。
 9月 54.5% 8月 6.7% 6月 6.3% 7月 24.0% その他 8.5%
 (2) 賞の投票者を一般客にしたことはどうでしたか。
 よい 79.0% わるい 18.2% その他 2.8%
 (3) 来年もあった方がよいと思いますか。
 はい 81.0% いいえ 17.8% その他 1.2%
- Q 16. 今年のしらこぼと祭はどうでしたか。
 よい 49.3% ふつう 20.4% わるい 22.0% その他 8.3%

by Midory.

体育祭

「我が回想 体育祭」

実行委員長 芳谷茂弘

閉会式の万才三唱が終わった瞬間、柄でもないことだが感無量というものにむせてしまった。そして閉会式が終わり、宗村先生と握手をかわした瞬間には、感無量が涙にかわっていた。まあ、それは冗談だが少なくとも体育祭における企画側の苦勞なんかどこやらへ水泡と化してしまった。

体育祭実行委員会というのは、初めから決して順風な航海では、なかった。自分が委員長という大任を引き受けた時、体育祭における四つのスローガンを考えていた。「激・動・燃・盛」である。

より激しく、より動き、より燃えて、そして最後に生徒全員が盛りあがる、この条件が満たされれば、文化祭にも勝るとも劣らない物になるぞ。と自分ながら思ったものだった。実際、文化祭には負けたくないというライバル意識は無論あった。しかし、現実はそのでななかつた。自分は、三年間体育委員であった。が怠慢とやる気のなさで言ってみれば、傍観者、土俵の外という感じであった。

しかし、これからは企画する側である。弱音なんか吐いていられない。ただ、あたってくだけるだ。そういう気持ちになったのも事実である。そして、本当に悪戦苦闘の連続であった。次から次へと持ち上がる難題、我が北高というものは、こんなに設備がそろっていないのかと驚いたものであった。そして、種目を決める段階でよせ

ばいいに道具の調達というものなんて考えもせず、これは、おもしろいな。と思うととんだん決めてしまった。

だから、その点今年は、種目においては、新鮮味でいっぱいだったと思っている。だが、ここで自分が提案したいことが一つばかりある。北高の伝統的種目というものは、一応「玉入れ」になっているがこれでは、少し物足りない。だから、『激動燃盛』の観点から男子は、「棒倒し」、女子は「棒引き」が最適だと思う。今年、棒倒しにおいては、時間が少ないという意見が多数を占めていたがこれは、今年、種目が多いために時間がたくさん取れなかったのである。だから、来年は、この二つで大いに盛り上げて欲しい。自分分は、プロレスが好きであるから、流血、なぐり合い、大いに結構と思う。男は「闘魂」が命であろう。少し、私情を交えてしまったがああ天下の進学校『開成高校』は、もし「子ぞろいであると思つたらとんでもない話である。開成の体育祭というのは、各チーム趣向をこらしたバックボードに絵を描き、そして騎馬戦なんかでは骨折なんて日常茶飯事であるという。それくらい、すさまじいものなのだ。だから我が北高でも負けずにやればいい。しかし、終わってから根にもつのは、絶対やめてほしい。そんなのは、男のくさった奴のやる事、もう競技が終わってしまえば、笑顔で握手を交わすのが本物の男である。来年の体育委員に御一考をお願いする。

しかし、考えてみれば、終わり良ければすべて良しというのは、本当である。夏のまっ盛りに準備したことは、忘れられない。みんな一生懸命やってくれた。特に執行部の人には、本当にお礼を言いたい。何か大きな事をやる場合には、一人の力では、とうていお世話がないものである。それが一人二人と集まってくれば、何かしらで

きるものだ。又、部活動関係者の人々も一生懸命やってくれた。特にその中でも陸上部の人たちの力は、我々にとって大きな助けとなつてくれた。

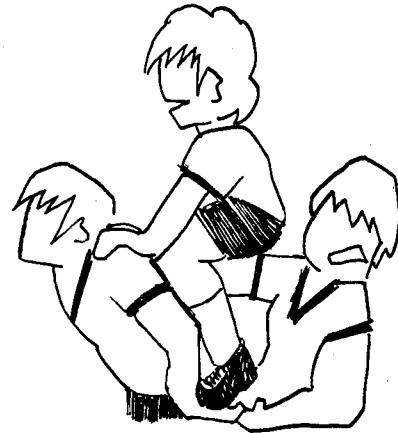
余談であるが自分は、開閉会式のあいさつは、ちゃんと考えていて家では、一人で予行演習をしたのである。があんな形になるなんて夢にも思っていなかった。万才三唱のアンコールで朝礼台の上に乗った時、「長い夜」を本当は、歌い上がった。RCの歌も歌い上がったが、「長い夜」は、文化祭において何回歌ったか自分でもわからないくらい歌ったし、RCにおいては、フィナーレでやったが今一パツとしなかったという実績がある。それに校長先生の万才三唱でせつかく盛り上がったのには俺の歌でぶち壊したらどうしようという弱気になっていたのである。あー情けない話だ。よし、これから歌う機会があれば、どんどん歌うぞと今、ひそかに自分心に誓っている。(万才三唱の時、関口教頭先生が感涙にむせていたというのは、本当であろうか?) 又、応援も盛り上がった一つであろう。もう少し、女子は、色っぽいしぐさをしてもらわないと思うが、どうであろうか。男子クラスというのは、(特に三年間男子クラスの間)ここぞとばかり、がんばるのだ。だから、北高の女子にもそれくらいのサービス精神というものがあってもおかしくないだろう。

本当に思い起こしてみれば、良き思い出のページになりつつある。生徒全員も多少の不満があったと思うが文化祭の余韻もプラスして盛り上がったという点においては、近年まれにみる体育祭であったのではと思う。三年間の中で我々が熱中する物がいくつあるだろうか。受験勉強・それもいいと思う。だが「三流主義への誘い・

汗を流し、血を流し、涙を流し。」というのは、運動以外ない。体育祭は、もっとも盛り上がるはずだ。後輩たちには、がんばってもらいたい。それから、この場を借りて宗村先生、井桁先生を初めとする体育科の先生には、本当にお世話になりました。お礼を言いたいと思います。

では、最後に前委員長からの遺言を一発、

『燃えよ、若人しらこぼと魂・「激・動・燃・盛」若さでぶっつきり体育祭』
あしからず●



しかし、体育祭の目玉といったら、やはりぼくは走るよりもあの棒倒しをとりた。あれは、とっくみあいやけんかなどがあり、格とう技の神ずいをきわめていて、いいと思う。だから、見るのも好きです。

まあ、このように私も、これ以上思い出がある訳ですから、皆さんもそれなりの思い出があると思います。しかし、一九八一年は、もう過ぎてしまいました。今や一九八二年、犬年なのであります。いつまでも去年の思い出にひたっているひまはありません。

今は二年。もう後、体育祭は私めには一回しかないものであります。(このまま順調にいけば) よって、最後の体育祭は楽しくしたい、よって、来年の体育祭に対する希望や感想を述べて、このバカらしい文を終わりにしたい。

それではまず始めに、もう少し異色なゲームを増やして欲しい。例えば逆だち競走とか、竹馬障害レースなど、その他数々ぜひお願いしたい。またある人がぜひ書いてくれとぼくに言ってきました。「もっとみんなのできる競技を増やして欲しい。」と。それは確かに言えるので、一ついい案を考えてみました。みんなでジャンケンをして、勝った人と負けた人で別れてまたジャンケンをする。最終的に一番勝った人と負けた人でジャンケンをして、負けていた人がもし勝ったら、これはみものですなあ。その他色々、まあ、こんなことで体育祭というのは、これから楽しいものにしてほしいのですなあ。

「体育祭」

二一五 M・M

例年にもなく、一九八一年の秋は赤とんぼの少ない年だったと思います。そんなスポーツの秋に当然どこにでもおこなわれる行事が体育祭であります。読んで字のごとく体育のお祭りかといえ、これがまた、かなりハードな競技の連続。

傷だらけ、泥まみれ(一生懸命やった人)になった後で、すがすがしさが残ったことと思います。が、しかし体力の限界を感じ、氣だるさも残った私でありました。

走り高とびで予せんおちして、しゃくだったけれどもあめだま競走で去年に続き一位をとったのは、実に光栄であります。V2を達成した訳ですから、V3をねらうのは自然の流れというものでしょう。北高で一つの競技にV3を達成した人が、今までに果たして、何人いるでしょうか。まあ、野球で言えば、名球会のようなものでしょう。(すみません、一人で妄想にふくらみました、失礼しました。)

また玉入れは一個しかかごにはいらず中学校時代玉入れゲーム(バスケット)をして青春していたばかりとは思わぬ顔がほころんでしまいました。しかし、それにしてもはずかしかったなあ、あれは。

種目	競技者	場所	時間
1 体操	全員		9:20
2 100m走	男女	S1 ~ G1	
3 200m走	男女	S2 ~ G2	
4 パン食い競争	男女	FF ~ FF	9:50
5 走り高	男女	FF ~ FF	9:50
6 50m背走	男女	S1 ~ G2	
7 棒引	男女	FF ~ FF	
8 80mハードル走	男女	S1 ~ G3	
9 スプーン競争	男女	FF ~ FF	10:30
10 百足競争	男女	S3 ~ G2	
11 百あめ競争	男女	FF ~ FF	
12 お猿のかし	男女	S4 ~ G2	
13 お猿のおし	男女	FF ~ FF	11:30
14 棒たウェーデンR	男女	S3 ~ G2	
昼 食 応 援 合 戦			
15 部活動対抗R		S2 ~ G2	13:00
16 ロードレース			13:20
17 教職員・来賓演技		FF	13:20
18 風船割り競争	男女	FF	13:30
19 大障害物競争	男女	S2 ~ G2	13:30
20 綱引き	男女	FF	
21 騎馬戦	男女	FF	14:20
22 玉入れ	男女	FF	
23 チーム対抗R	男女	S2 ~ G2	15:00

プログラム

1. 開会式 9:00

1. 開会宣言
2. 学校長挨拶
3. 生徒会長挨拶
4. 実行委員長挨拶
5. 競技上の注意
6. 選手宣誓

2. 競技 9:20

3. 閉会式 15:20

1. 成績発表
2. 表彰
3. 講評
4. 実行委員長挨拶
5. 校歌斉唱
(万才三唱)
6. 閉会宣言



男子優勝者

久保木 敏 訓

どんよりと曇った空の下であったが、昨年のように順延をする必要もなく、56年度強歩大会は初まりを見た。
昨年と同様のコースで二・三年生には勝手知ったるといふ感だがやはり緊張はかくせないようだった。

国鉄武蔵野線の三郷駅から、どんどん集まってくる人々、33kmという距離を走りぬくためには(女子は20km)練習なんかしてきた人もいるのだろう。ちょっと考えると33kmというのは、とうもろこい距離に感じられるが、この若さをもってすれば、青春の汗を流すのもってこいである。(ちょっとキザになったが)

なにはともあれスタートである。後方にいた人にも先頭が見えるという、このすばらしくも、にくったらしいコースを走るみんなは川の向こうから見たら、一本の線と見えるのではないだろうか。が、その線も、折り返すころにはバラバラ、バラバラにはなりつつも、昨年とちがって今年は脱落者が少なかった。いつもなら、なまけてしまう三年生、仲々必死である。後ろから来た、見知らぬ人が肩をたたいて、あいさつをしていく、なんとも美しい光景が飛びかう。すばらしきこの強歩大会。

ちょっとオーバーではあるが、この大会いつまでも続けていってほしいものである。

い面もある。二回とも強がりな面が成功している。走る前は二番手ぐらいについてラストで抜かそうかな、と思っていたのだが、二番はきらいだから、最初から思いっ切り出して一人で走りたかった。これがよかったのだ。でも一人で走るのにも限度があるもので、ある意味で本当の戦いは一人になってからだった。徐々におそくなり常の後が気になった。追われる立場の人しかわからない恐怖であるが、ゴールインしたときの疲れはほとんどこの恐怖からきている。ところが性格とは恐ろしいもので、ぼくが抜かしていく女子が、えーもう抜かされちゃったの、と言っている声を聞くと一瞬スピードが速くなった。これははっきりいって陸上の大会ではあり得ないことだ。

こうしてゴールインしたときの興奮がさめた今、感想を書いていると自然に燃えてくる。今にも走り出したい気分だ。来年の大会が楽しみである。



ぼくは強歩大会のために誰よりも練習した。そして、誰よりも強歩大会を意識してきた。強歩大会に対する心がまえば誰にも負けなかったつもりだ。だから決して去年一位だったから今年も一位になるだろうと甘い考えで強歩大会に望んだわけではない。とにかく今年の強歩大会にぼくは勝った。一位イコール勝ちではない。去年の自分に勝ってこそ、本当の勝ちだ。そんな点で、今年も満点である。ぼくは陸上部に入っているが、走ることが好きで好きでたまらないわけじゃないし、走ることしか知らない男でもない。ただ強歩大会は苦しいけど好きだ。別に自分をいじめることに快感をもっているからではないし、メダルをもらい、校長先生と握手できるからでもない。それは強歩大会ほど一年間の練習の成果がはっきりわかる競技はないから好きなのだ。今年満足した理由も、去年より七分も記録を縮めたことにある。これでいくと、単純計算して来年は一時間五十六分でゴールインして、北高新記録になる。これはオーバーであるが一分一秒でも縮めたい。

ぼくは強歩大会で、順位を全く気にしないと言えようことになるが、少なくとも気にしないように努力した。三十三kmという距離は意識して一位を取ろうと思つて取れる距離ではない。実際の敵は自分である。ぼくの性格は強がりな面もあるし、誘惑に負けやすい弱

女子優勝者

佐 溝 廣 子

二十キロメートルを完走し、ゴールに拍手で迎えられた時、うれしいというよりも、「やった／＼完走したぞ／＼」という満足感でいっぱいだった。

去年、初めて二十キロという距離を走った時は、だいたい二十キロという走ったことのない距離の感覚や、第一、完走できるかどうかかわらないという状態だったので、本当に無心というか、限界までがんばればという気持ちで、いつのまにか上位にくいこんでいたという感じだった。でも、今年は違った。自分では、何はともあれ『完走』をめざしたが、やたらと順位のこと話題に上った。全く意識しなかったといえようになるが、とにかくゴールした時に「自分の最高の力が出せた」と思えば……。そのわりには、前日、クラスのス君と、「三位に入賞したらチョコレートパフェ」などと矛盾したことを言い合ったりして……。でも、本当に走る前は、自信がなかった。

コースは去年と同じだが、最初に土手をかけ登らなくてもよかったのでいく分楽だったけど、スタートのダッシュは、すさまじく倒されてしまった。先は長いだからなどと、私は気長にかまえていただけに、スタートには「あっぱれ」という感じだった。

折り返し点を基準に前半・後半とわけると、前半の方がずっと楽

であった。というのは、まだ、まわりに人がいるので、一人で走っている、孤独などという気持ちにはならないからだ。男子の方に追いつくと、ずっと先まで人が連なっているの、あそこの集団に追いつこうと思ひ、追いつくと、次はあそこの集団までというようにまわりの人が、ペースメーカーのようになって、自分中心に考え、まわりの人に私のペースをつくってもらったようなかたちだった。その頃になると、まわりに女子がいなくなっていて、体がちょうどだるくなり始めた頃だったが、まわりから「がんばって」などと声をかけられると、本当にうれしかった。なかには「女に抜かされるのは男の恥」とでもいうように、私が近づくと、パーッと走って行き、しばらくしてまた近づくと、走っていく人がいたが、最後に折り返しの所で「がんばってネ」と声をかけてくれた三年生の男子の人のディバックを背負った後ろ姿が、やけに印象に残っている。

折り返しを過ぎてしばらくは、向かってくる人たちと声をかけて走っていたので気がまぎれたが、もう誰も反対側から来なくなつた時から、本当に孤独とのたたかひだった。これは自分でも驚いたことだったが、後ろを振り返ると、誰の姿もなかったのだ。声をかける人もいなければ、目指す人もいない。追われているという気持ちにもなれなくて、ただ、ひたすら、早くゴールしたいという一心だった。

先の方に何やら人影が……。ああ、もうすぐゴールだノと思いきや近づくと、ゴルフにきているおじさんだったり、足の方も、走っているというよりは、ただ動かし続けているといった風で、本当のゴールが見えた時は、一人で笑みがこぼれてきてしまった。

「走る」ということに対して、ズバ抜けてるわけでもなく、大好

強歩大会に参加して

当日はどんよりとしていて、今にも雨が降りそうなマラソン日よりであった。何か、自分の今の心境を表わしているかのようさえ思えた。しかしながら、このような気持ちになつたのも、ずうずうしくも百位以内をねらうという当初の目標があつたからこそなのかもしれない。

そんな出発前の心配をよそに、すでに千人を超える長い行列の先頭の方はすでにスタートしているようであった。自分もハッと我に返り、スタートした。スタート時というものは、毎度のことながらある一種の緊張感がある。この緊張感には自分の可能性や才能をたやすものにはつきものである。一樣、人並みにこの緊張感を自分も確かに感じとつたのである。

スタートして12㎞ぐらいたっただろうか。スタート当初の長いムカデから、自分を含むある一集団ができていた。自分の回りの者に刺激されてか、自分としては、やや早いピッチで走っていた。マイペース、マイペースと自分に言い聞かせているのだが、人間の弱身というものであろうか。落ちこぼれたくないという気持ちが先立ち折り返し地点まで、呼吸が乱れながらもついていってしまった。

折り返してからが悲惨であった。回りの者はみんな、以前よりまして早いピッチで走り出した。その時、これはもうだめだと思ひ

きというわけでもなく、強歩大会ということばの響きは、私にとつて、決していいものではなかった。一人きりで、ただもくもくと……。たぶん、ほとんどの人にとって、いいイメージはないだろう。ただこの強歩大会を通じて、「走る」ということがつらく、孤独とのたたかひであることに変わりはないが、それをやり通した後の満足感、大きな喜びでもあることがわかった。

来年は、部活も引退し、体力は今年ほどないだろうが、来年は来年なりの力に感じて、走る喜びを味わいたい。



すなおにあきらめた。後続にいる友達がいざまにはげましてくれたが、笑って答える余裕もないといった状態。たしか、あれは野田橋付近からあつただろうか。今まで、ディスク調のような軽快な足どりが、徐々に重くなり、ついには日本のフォーク調のような足どり（||||どことなく重々しい。）に変わってしまった。いまには走断念してしまつた。その時、ほんの一瞬、楽になれるのだが、今までの疲れがドツと出てくる。体は湯ざめした状態になり、むしろにのどが渇く、おまけにひざは思うように動かないため尻に負担がかり、うんこがしたくなる。そうこうしているうちにタオルをはちまき代りに使っているやつとかあめ玉でリズムをとっているやつらにどんどん抜かれて行く。この時ほど、自分の負けを感じたことはなかった。自分のみじめな姿が脳裏に映る。そして、歩くのもやつとといった状態でゴールイン。その時、充実感ではなく敗北感を強く感じたものであつたのと同様に来年こそはと新たな気持ちに燃えた。



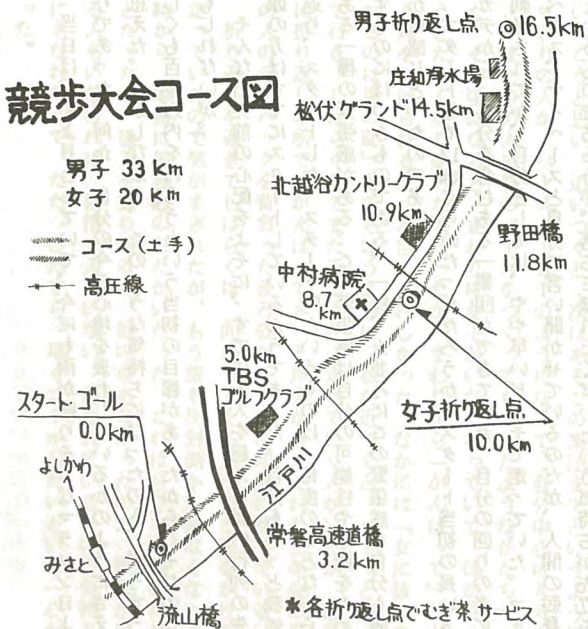
第13回強歩大会

結果一覧表(男子)

男子最終走者 4°58'38"
女子 " 3°14'05"

順	年	組	番	氏名	タイム	順	年	組	番	氏名	タイム
1	2	6	15	久保木敏訓	2°03'47"	26	2	10	6	石塚 勝美	39'20"
2	3	4	1	五十嵐公明	16'10"	27	1	7	24	渡辺 孝	39'39"
3	2	4	44	森川 晶彦	17'18"	28	2	4	4	稲吉 雅司	40'05"
4	3	3	44	柳田 隆行	19'52"	29	1	2	34	広瀬 良範	40'15"
5	3	9	3	五十嵐信之	21'51"	30	3	7	34	吉田 進	40'17"
6	2	4	41	真鍋 聡	25'33"	31	1	6	43	森山 孟	40'24"
7	2	7	16	生井 隆之	29'31"	32	2	6	5	大友 謙	41'02"
8	1	2	36	松石 宏二	30'27"	33	2	8	5	市川 豊	41'15"
9	1	9	13	鈴木 繁行	30'56"	34	2	4	38	長谷川 聡	41'35"
10	1	3	34	平川 武	31'25"	35	2	2	13	岡部 圭保	41'36"
11	1	8	10	大重 俊之	31'40"	36	2	4	42	三浦 秀行	41'49"
12	1	8	33	細田 勝利	32'38"	37	1	1	7	金子 弘	42'04"
13	1	6	39	日向 一郎	33'14"	38	2	7	2	池内 信二	42'44"
14	2	2	03	阿曾 一郎	35'10"	39	2	10	4	尾身 信幸	43'29"
15	1	3	16	日下部和宏	35'14"	40	1	4	21	山本 哲哉	43'30"
16	2	8	40	樋山 忠義	35'49"	41	2	9	6	小松 隆司	43'55"
17	1	6	8	太田 明宏	35'55"	42	2	6	29	仲野 秀人	44'10"
18	3	6	26	峰岸 里志	36'38"	43	2	10	23	横田 毅	44'45"
19	1	6	41	堀中 裕二	37'29"	44	1	3	42	矢口 秀政	44'50"
20	3	3	36	橋本 義徳	38'22"	45	2	10	10	佐藤 弘次	45'28"
21	2	9	14	角井 輝昭	38'31"	46	3	2	27	高橋 健一	45'35"
22	1	9	5	菊地 靖	38'36"	47	1	3	20	志田 吉克	45'45"
23	1	3	37	前田 哲郎	38'42"	48	2	9	21	矢沢 幸一	46'10"
24	1	5	2	井沢 康夫	38'47"	49	2	7	13	築山 忠史	46'12"
25	1	8	23	高橋 裕	38'54"	50	2	3	3	石塚 照雄	46'15"

競歩大会コース図



第13回強歩大会

上位者氏名(女子)

順	年	組	番	氏名	タイム	順	年	組	番	氏名	タイム
1	2	10	35	佐溝 廣子	1°32'36"	16	1	4	26	市橋 緑	42'39"
2	2	10	39	弦巻 聖子	34'56"	17	2	10	43	町 広美	43'56"
3	2	10	32	木村 美和	35'29"	18	2	10	28	垣内理恵子	44'17"
4	2	3	27	内田 洋子	37'21"	19	2	1	26	大久保真奈美	44'19"
5	1	10	37	高橋千佳子	38'27"	20	1	1	32	嶋崎ひろみ	44'44"
6	1	5	33	金田 総子	38'28"	21	2	5	29	亀山佳世子	44'56"
7	1	4	41	名淵 絵美	38'35"	22	1	5	38	関口いずみ	44'58"
8	1	9	29	植村 典代	39'02"	23	2	10	29	加治しのぶ	45'08"
9	1	5	46	吉野久美子	39'05"	24	1	1	34	鈴木 牧子	45'18"
10	1	9	27	和泉まゆり	39'19"	25	1	10	42	三須 典子	45'45"
11	2	1	33	佐々木則子	39'21"	26	1	1	27	小沢菜穂子	45'49"
12	2	10	36	武田祐加子	40'28"	27	1	10	46	和田さゆり	46'30"
13	2	1	27	片岡さつき	40'43"	28	2	1	29	北島ひろみ	46'41"
14	2	7	27	内田ふみえ	42'28"	29	1	10	39	永田有紀子	46'44"
15	1	5	25	朝田 貴子	42'34"	30	2	7	46	三好由紀子	46'46"

11/5 (木)

奈良—橘寺—京都
8:30 10:00 14:00 17:30

奈良—法隆寺—中宮寺—法起寺—唐招提寺—薬師寺—京都
8:30 9:10 13:00 13:30 15:30 17:30

奈良—浄瑠璃寺—岩船寺—平等院—醍醐寺—京都
8:30 10:10 11:30 14:30 16:30 17:30

奈良—薬師寺—秋篠寺—平等院—醍醐寺—京都
8:30 10:10 11:30 14:30 16:30 17:30

奈良市内自由見学・興福寺—京都
15:20 17:30

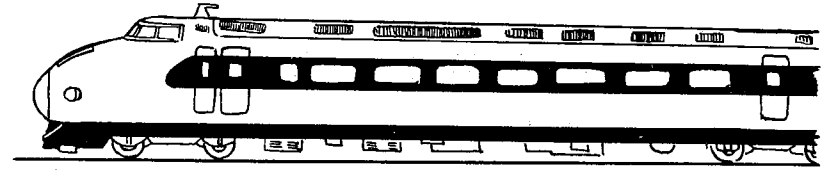
(ホテルニュー京都)

11/6 (金)

——— 京都市内グループ見学 ———

修学旅行

「座・座席が動かん」
三人掛の回転不能シートに閉口する我々などに知らん顔で、ひかり号は一路名古屋へ。二階建ビスタカーの一階席に座った連中は、ホームにいる女性のスカートの中が見えたの、見えないのと騒ぐし、大王崎へ行った連中は坂で疲れたの、やれパールロードはつまらないのと文句をたれる。遊覧船は夜だったから何も見えなかった。名張から室生寺へ行けばやっぱり疲れたと愚痴をこぼし、伊賀上野忍者屋敷では、本職を驚かす妙技を見せる者も居る。奈良での夜の自由行動、奈良まで来てマンガ本買ってる奴もいるし。
三日目は、割にバラバラだったが、持ち前の図々しさを見せびら



修学旅行

11/3 (火)

ひかり93号 近鉄特急
東京 8:36 名古屋 10:37/11:10 宇治山田 12:38
11:25 12:43

13:40/14:00 (パールロード)
伊勢神宮
宇治山田 13:00 二見ヶ浦—鳥羽—大王崎灯台—御座—賢島
17:25 17:50
13:40/14:30 15:40/16:10
(和風賢島旅館)

11/4 (水)

バス 近鉄 (団体貸切)
賢島 8:00 鳥羽 9:00/9:29 名張 10:50

11:40/12:00 13:10/14:30 15:10/16:30
11:20 名張 青蓮寺湖—香落溪—室生寺—長谷寺—奈良 17:30
11:20 伊賀上野 (上野城・忍者屋敷)—奈良公園— (都ホテル)
12:00/13:40 15:00

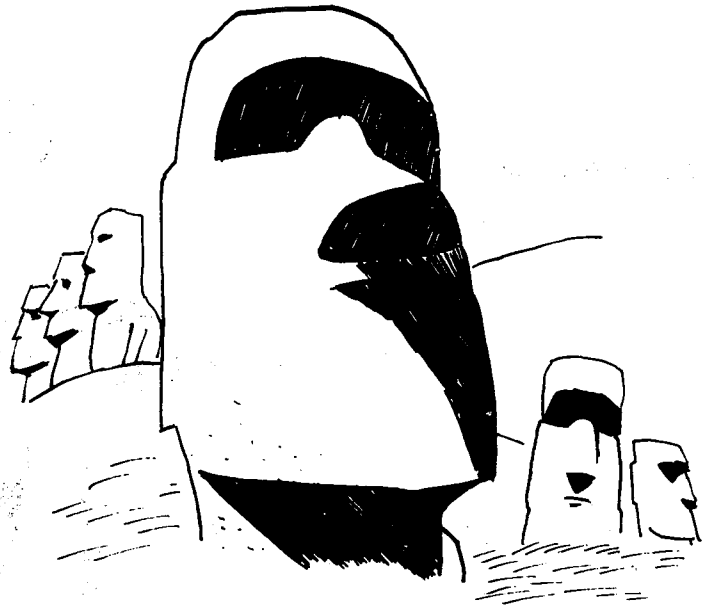
旅行委員になって

旅行委員長 米山 武志



中間審査もあったが、それにもめげずに旅行委員会は頑張って活動をした。
又、みんなが最もエキサイトしたのは、「ホテルの部屋割り」、「新幹線の座席」の決定などであった。特に男子クラスの委員は、「共学クラスの近くがいい」とずっとわめいていたのであった。
このように毎日、旅行委員のみんなが陰で一生懸命やってくれたおかげで修学旅行は、みんなのこころに残るような修学旅行になったのである。
そして、又僕自身にとっても大きな体験であった。

僕が旅行委員会に入った理由は、単に「旅行が好きだ」という理由だけであった。しかし、この気まぐれな理由から、僕は貴重な体験をすることになったのである。
さて、一学期は想像していたよりも、旅行委員会はあまり開かれなかったが、二学期になると、一週間おき。修学旅行が近づくと、三日おきに開かれた。この間には、文化祭・体育祭があり、そして



部 同 活 好 動 会

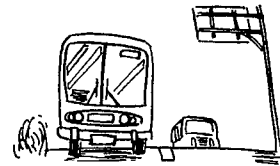
11/7 (土) ホテルニュー京都 — 大原の里 — 寂光院 — 三千院 — 京都駅
 8:00 8:50 9:00/9:30 10:10/10:40 12:30

ホテルニュー京都 — 友禅文化会館 — 清水寺団地 — 清水寺 — 京都駅
 8:00 8:50/9:50 10:20/11:00 11:30/12:20 12:30

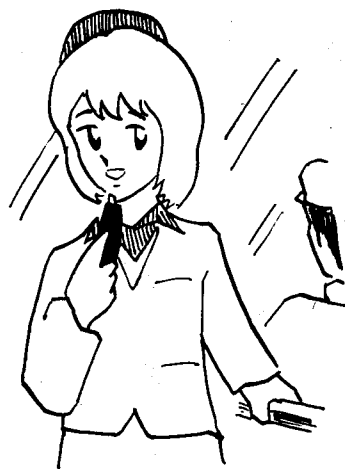
ホテルニュー京都 — 広隆寺 — 東映大森映画村 — 京都駅
 8:00 8:50/9:40 10:00/12:00 12:30

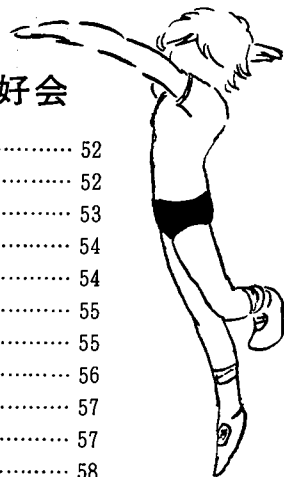
ホテルニュー京都 — 三井寺 — 清水寺 — 京都駅
 8:00 9:00/9:50 11:20/11:30 12:30

京都 — ひかり70号 — 東京
 13:17 16:08



かす。道端の柿をチヨロまかすかと思えば、小学生相手の野球で三振する、鐘つき堂では知らん顔で鐘をつく。もうあきまへんわ。京都のホテルは無茶苦茶豪華、御夕食はフルコース。えろう疲れたわ。何や場ちがいやなあ、よう落ちつかん。京都は一日自由。嵐山で道に迷うのもいるし、龍安寺は石見せるだけのやのに三百円もとるとぼやくのもおるわ。それにしたかて、ボーイ(ガール)ハントしに行ったんかいな、物喰いに行ったんかいな。(人のことは言えない)とにかく、またあの回らんシートのひかり号は東京へ向かう。もうあきれてもうたわ。図書室行くと、旅行をつづった文集がきつとある。三年生のみなはん、よう読んで研究しとき。





文化部・同好会

アマチュア無線部	52
E. S. S.部	52
映画研究同好会	53
演劇部	54
華道部	54
ギター部	55
計算機同好会	55
茶道部	56
写真部	57
将棋部	57
書道部	58
吹奏楽部	59
生物部	59
箏曲部	59
鉄道研究同好会	60
天文気象部	61
美術部	61
文芸部	62
漫画研究部	63
ユースホステル同好会	63
合唱同好会	64

運動部・同好会

應援部	41
空手道部	42
剣道部	42
サッカー部	43
柔道部	43
ソフトボール部	44
体操部	44
男子卓球部	45
女子卓球部	46
男子テニス部(軟式)	46
女子テニス部(軟式)	47
硬式テニス同好会	47
男子バスケット部	48
女子バスケット部	48
バドミントン部	49
男子バレー部	49
女子バレー部	50
野球部	50
陸上部	51

運動部・同好会

※ 應援部

押忍。我々應援部も今年で六代目となり、大学の真似事から、北高独自の應援部に移行しなければならない時期に入った。つまり、これからは本当の北高應援部になるということである。よって我々は、やる気のある生徒を常に待ち望んでいるわけである。といっても、應援部の活動内容がわからない、という人が多いと思うので、順次説明していくと、まず四月に「校歌指導」というのがある。これは新一年生に校歌を教えこませるものであり、これによって新一年生は、應援部の存在を知る。続いて五月に「壮行会」がある。これは、運動部の選手の健闘をたたえる会である。そして七月に應援部本来の活動である野球の應援がある。くそ暑い中を学生服を着たまま應援するのだから、まさに生き地獄である。そして九月の文化祭における演技披露、「白子鳩の叫び」をもって、三年生は引退となる。二月には、一・二年生部員で予餞会において、三年部員を送りだすのである。これが一年間の主な活動であるが、普段の活動内容を説明すると、

- 月...レパードトリー・補強
- 木...補強
- 火...補強
- 金...レパードトリー(必修のみ)
- 水...レパードトリー・奉仕活動
- 土...補強



と、以上である。ようするに、運動部と文化部の中間のような部なのである。

高校生になっていろいろと楽しみはあるけれど、勉強・スポーツ・バイト・恋・何でもいから一つの事に燃えなければ高校生活を楽しく過ごすことができない。應援やってみようかな、という人がいれば、我々はいつでも歓迎する。何もしないより、何かしたほうがずっとすばらしいと思う。なお、我々北高應援部には、暴力行為などは一切なく、大学の應援部とはかなり違って、実に健全な部であるということをおわかってもらいたい。

以上

空手道部

こんにちは、空手道部です。入学おめでとうございます。
この越谷北高に入ったからには、勉強にも、運動にも励まなければなりません。部活動に入って、すばらしい青春を送ってみませんか。

「空手」それは、素手で四方八方からくる敵の息の根を止めるといふものなのであります。

皆様は、空手というと、ボカスカと殴る・蹴ることだけを想像されると思いますが、肉体的・精神的に己を鍛えることが、本当の武道なのであります。この和道流の空手は、あたる寸前で「突き」「蹴り」を止めるものでありますから、危険はありません。しかし口の中を裂傷する・手足のつき指・あざ・捻挫・程度はこの部活動でもおこることで、真剣にやっつけられさえすれば、痛くもかゆくもありません。

女子の方は、「おっかない」「女だからはずかしい」「きたない」とか言う人がいると思いますが、そんなことはありません。顧問は女教師であります。女子の方も強くなって、イヤらしい男・弱々しい男どもを、ぶんなぐってみてはいかががでしょうか。
では、最後に主な成績を紹介いたします。

55年度 新人戦大会 準優勝
56年度 春季学徒大会 第三位

剣道部

第10回 関東高等学校空手道大会 出場
56年度 新人戦大会 第三位

現在、剣道部を有する高等学校は県内に於いて、百四十余校である。その中には、男女合計、八十人からの部員をもつマンモス剣道部もあれば、十五人足らずで頑張っている剣道部もある。

我が越谷北高剣道部は、十五人のプレイヤーと二人のマネージャーで成り立っている。それではここで成績を紹介する。

(男子) 新人戦県大会ベスト16
埼玉県剣道大会個人戦 我が主将がベスト8
学徒大会ベスト8・インハイ予戦ベスト8

(女子)
新人戦東部地区大会優勝
羽生市剣道大会個人戦 女子主将が優勝

まず北高剣道部の特色としては、男女に別れていない事である。男子にとっては、女子と同じ練習では情けないと思われるかも知れないが、そんな事はない。各人の自覚によって、女子はもちろん男子にも相当充実した練習をしている。関東大会には県内から四校、インターハイには一校。我々はこれを目指して頑張っているのではない。決して手の届かないものではない。しかし、容易に手に入るものではない。どこまでも努力したいと思っている。

さて、新入生諸君、関東大会そしてインターハイを目指そうではないか、有段者は勿論、初心者でも必死に練習すれば三年の夏まで

に必ずや二段になれる。現に私は北高に入ってから剣道を始めた。

主将を初め部内の雰囲気は、とても明るい。高校生活で何かを一つやり通したいと思う者は、剣道部で頑張ってみないか、又、マネージャーの仕事をして頂ける方を募集しています。よろしくおねがいします。



サッカー部

我々サッカー部は現在、一年生二十四名、二年生二十三名、そして女子マネージャー一名の計四十八名で活動している、活気あふれた部です。

練習は月曜日から土曜日までの放課後で、月に数回、他校との練習試合を行っています。

主な戦績は
。東部地区春季大会優勝
。学徒大会

一次予選
一回戦 对本庄北 3-1 二回戦 対慶応志木 1-0
三回戦 対大宮 4-2 四回戦 対浦和西 0-1
(二次予選へ)

二次予選
对本庄東 4-0 準々決勝 対武南 0-6
対駒西 15-0 対不動岡 1-0
対所沢北 4-0 決勝 対鴻巣 2-0
二次予選

対浦和北 4-2 準々決勝 対浦和南 1-4
以上のような素晴らしい成績が残せたのは、「練習で泣いて試合で笑え」という言葉をサッカー信条とする顧問の宗村先生の熱心な指導の下、行われる、毎日の練習の成果であると共に、全員一丸となり勝利への執念を持ち続けたことだと思えます。また我々は部員が多いにもかかわらず、よくまとまり、明るい雰囲気の中で気のこもった練習をすることができます。そして我々はOBの先輩方が築いてくださった伝統を誇りとし、なお一層の飛躍を目指して日々練習に励んでいます。

柔道部

十二月現在の部員数は二年生・三人、一年生・六人で少人数ではあるが毎日練習に励んでいます。

練習内容を紹介しますと

月曜 寝技の練習

火曜 立ち技の練習

水曜 補強

木曜 立ち技の練習

金曜 寝技の練習

土曜 立ち技と寝技の練習

日曜・祭日は休みになっています。練習は、深沢先生と渡辺先生が稽古をつけて下さいます。

柔道は、危険なスポーツ（武道）だと思われがちですが、初心者でも初めにきちんとした体力と受け身を身につけてしまえば安全です。あとは、先生方の指導の下でコツコツ努力を積み重ねていけば確実に実力がつき上達します。

高校を卒業してしまえばスポーツなどやる機会が少なくなり、ましてや武道の柔道などいまやらなければ一生やらないうえに、社会へ出てからいろいろな困難にぶつかるとは、だからその前にその困難に立ち向えるようなたくましい体力・精神力を養ってみたいでしょう。

やる気のある一年生諸君、我々と健全な心と体を鍛えよう。

※ソフトボール部

私たちソフト部員は、只今、総勢12名です。女子が少ないという生徒状況から、決して少ない方ではありませんが、数年前は、七名

だ現役バリバリの山口先生のもとで、先輩・後輩といった上下関係も非常に和やかな楽しい部です。

体操ときくと、一種独特な他のスポーツとは違うという観念をもっている人も多いと思います。確かに他のスポーツと同じように奥行きが深く、さらに幅の広い面を持っているスポーツです。例えば、技ブラス美で作られるものであるということです。又、練習では、目の前の危険を乗り越えて技をつかもうとする勇氣と、持久力が必要です。しかし段階をふんでいけば、決して難しいスポーツではありません。素直に練習していけば必ず実を結ぶやりのあるスポーツです。

かつての先輩方ほとんどが未経験者でありながら、体操のすばらしさに嘆息しながら卒業していったのです。そして、卒業してからも、OB会をもうけ常に交流しています。

- 学徒県大会 女子団体9位
- 新人戦県大会 男子個人総合11位
- 女子団体11位

※男子卓球部

我々男子卓球部の本年度の戦績は、春・夏共に東部地区ベスト8で県大会には、毎回出場しています。すばらしいといえる戦績は、取れていませんが、東部地区で必ずベスト8には入るのが男子卓球部の特徴です。この戦績からもわかるように、非常にバランスのと

という事実もあったので、まだ、よい方だと思えます。でも、ソフトボールについて考えてみて下さい。レギュラーが九人なんです。そうなるに残りは三名。練習をやるにも、人数不足で、満足な結果を得るにも苦労します。それに、今年三年生六名が引退してしまくと、六名しか残りません。そこで、一年生の力が必要になってくるのです。

練習は、厳しくもあり、楽しいものです。高校は、先輩、後輩の隔たりのあまりないところだと思えます。先輩・後輩との会話も、とてもよいのですが、同年代の部員との交流は最高ですよ。みんなにも、こんな経験があるとは思いますが、現在の実感からひとこと、言わせていただきました。

新人戦では、春日部女子高等学校と白熱した試合を展開しました。逆転に次ぐ逆転。ソフトボールの好きなあなたなら、この興奮がわかると思います。高校野球やプロ野球が盛んな今、女子の活躍の場は、ソフトボールしかありません。あの勝った時の感動をもう一度、そして、負けた時のあのくやしさを大切にしながら、ソフトボールをやってみるのも、一つの感動です。いっしょに、がんばってみようではありませんか。

最後に、マネージャーをやりたい人も大歓迎です。

※体操部

私たち体操部は、男子二人、女子四人の小さな部ですが、長い伝統があり、高校生のようにフレッシュで優しい石川先生と、まだま

れた、安定感のあるチームといえます。

部員数は二年生11名、一年生12名、マネージャー1名、計24名という多人数をかまえています。この人数の割に、卓球台の数が少ないことなどの問題がありますが、練習は、主に二・三年生を中心とし、一年生は、夏季合宿頃まで体力づくりを主とします。ただし、実力主義であるので、実力さえあれば、即試合にでられます。

また、男子卓球部には、初心者も多く、その人たちの実力も二年生ぐらいになると、経験者とかわらなくらいになっています。（もちろんその人たちの努力は人並ではありません）ようするに努力すれば初心者でもかなりの実力をつけることができます。長々と書いてきましたが、男子卓球部では、やる気のある者を求めています。

今までは、一応、入部を考えている男の人たちを書いてきましたが、最後に一言、女の人たちにも、男子卓球部、只今、マネージャー募集です。よろしく。



女子卓球部

私達女子卓球部は、現在一年生が五人、二年生が四人です。この原稿がしらこばとにのるころは何人になっているのか。他の部活から比べたら少ないように思われるかもしれませんが、これでも我が部は進歩しているのです。なにを隠そう四年前、女子卓球部は、部員数が足らず休部状態だったのですから。今年こそは十人台にのりたいものです。でもそのかわりといつてはなんです、人数が少ない分、台が余裕を持って使えるので練習が充分でき、二年生など四人の内三人は初心者にもかかわらず、夏の東部地区大会で、団体で三位をとることができました。でもぜひたくを言えば、斜めに傾むいていない台がほしいのですが……。

よく卓球は暗いイメージがあると言われます。確かに練習の時は光をきらいますし、ユニホームなどは、白を着ることは禁じられているのです。ちなみに私達のユニホームはしぶさの黒です。中には、蛍光ペンの黄色のような色もありますけど、こんなところから暗いイメージがわくようですが、そんな風に思っている人にはぜひ試合を見てもらいたいです。スマッシュの打ち合いなどぜひとも。絶対そんなイメージをもたなくならないと思います。その一瞬だけでも。

あーなんかマジメくさい文章になってしまった。当初は、えぐい文章で書こうと思っていたのに。やっぱり私に書かせたのは、ま

ベスト8

女子テニス部 (軟式)

私たち女子テニス部は、二年生十二名、一年生十一名、計二十三名で活動しています。顧問の先生は、倉持先生と小林先生で、マネージャーは部員の中の二年生が兼ねて行なっています。

練習は月曜日から土曜日の6時まで(ただし冬は日没まで)で、日曜・祭日の練習は一週おきに行なっています。活動場所は、校庭のテニスコート2面ですが、雨の日は校舎内で補強等を行ないます。

試合が春から夏に集中して冬がオフシーズンになるので、練習内容はそれなりに違ってきます。夏は基本練習から応用練習までいろいろな練習をし、冬には春に備えて基本練習を中心に体力づくりをしています。しかし、冬は日没までの時間が短いのと、強風等で練習ができなくなったりするので、気を抜いてしまいがちです。そこで気分転換などを取り入れながら、そういったことをなくすよう努力しています。また、部員間の交流を深めるように、楽しい企画も取り入れ、まとまりのある部作りをしています。

三年生の先輩方が引退されてから、先輩方の築かれた伝統を守ろうと努力してきました。また、今後その気持ちを忘れずにがんばりたいと思います。

最後に、56年3月からの主な戦績を紹介しておきます。

- 。春の東部リーグ 一部・四位
- 。秋の東部リーグ 優勝

ずかったのよ。かんんしてつかーさい。

男子テニス部 (軟式)



今やテニスブームの盛りをちよつとすぎたところ。幼稚園児から老人ホームの人たちまで広い年齢層を持っているテニス。ここで軟式テニスがどんなスポーツか知っている人は多いと思うが、少数でも知らない人が北高生にいと軟式テニス部の存在を疑われるので、一応、説明しておきたいと思う。

軟式テニスは、そもそも明治時代硬式テニスから分かれて発展した日本独特のスポーツ。しかし今では韓国・台湾などのアジア地域などに普及している。硬式テニスから分かれてきたスポーツなので共通点を多く持っているが、現在ではまったく別のスポーツとして発展しつつある。硬式テニスならいいけどと思う人も多いと思う。これは、軟式テニスに国際性が少しかけていて暗いイメージがあって、目立ちたい人にはいやな印象をあたえているせいもあるだろうが、決してそんなことはない。やる気のある人、又マネージャーを募集している。

近年における男子テニス部の成績

- 秋季東部リーグ大会 一部リーグ 第3位
- 新人戦東部地区大会 4チーム出場
- 新人戦東部地区大会

。新人戦東部地区予選 (団体) 三位

(個人) 前田・石川組 小野・弦巻組 ベスト8

。新人戦県大会出場 (団体・個人四組)

硬式テニス同好会

我々、硬式テニス同好会は、現在二年生(男子15名・女子4名)・一年生(男子12名・女子7名)の計38名で活動しています。練習はほとんど男女別に行われています。コートは、バレーコートと兼ねていますが、悪条件にめげず、毎日の練習に励んでいます。練習内容は、乱打・ストロークなどを基本として、サーブ練習、1対2、コンビネーションなどが主です。少ないコート数で37名という、このような大人数ですから、打てる回数も少ないのですが、一球一球真剣に打ったり、補強をやったりして、体力の向上をはかっています。創立一年目で、伝統はありませんが、これまでの成績としては、

東部地区新人戦(9・10月)

(男子) …… 生井・梅川組 ベスト16

(女子) …… 金田・関根組 ベスト

金田選手東部地区優勝(県大ベスト8)

新人戦 (団体) (11月)

(男子) …… 越谷北 0-4 上尾南(一回戦)

(女子) …… 越谷北

などで、創立一年目にしては、輝かしいものです。しかしもっと輝

かしい伝統を作り上げていくには、これからも、練習に熱をいれることだと思います。ですから、来年の一年生には、テニスのやる気のある人、勝つためならどんなにつらい練習でも耐えられる、忍耐強い人、そんな人を希望しています。

越谷北 63-70 不動岡
県大出場

男子バスケット部

我が男子バスケット部は、二年生11人、一年生2人、マネージャー12人の計十二人で、佐藤良裕コーチや良きOBの先輩方の指導のもとで、毎日練習に励んでいます。練習は、ほとんど毎日、二〜四時間ぐらい行なわれている。コーチ・部員とも、芸あり、技あり、ユニークありで、練習中でも、ジョークや笑いが起き、チームワークは抜群である。厳しい練習で、ついでに気がゆるむと、周りの部員が声を出して、盛り上げ、みんなの夢に向かって、頑張っている。バスケットの好きな方、興味のある方、やりたい方、この素晴らしい雰囲気味わってみませんか？ マネージャーも大歓迎。最後に、戦績を……

・東部新人大会(9・29〜10・4)

越谷北 97-29 栗橋
越谷北 88-44 鷺宮
越谷北 41-76 草加
越谷北 51-34 久喜工
越谷北 80-37 鷺宮



・新人戦(12月4・5日)

越谷北 45-46 草加

その他、練習試合も数多く行なっています。女子バスケット部は、これから伸びるチームです。一年生のみなさん、私たちは、やる気のある人、バスケットの好きな人、根性のある人、そんな人を希望しています。

バドミントン部

我々バドミントン部は現在二年生・男子7名、女子6名、一年生・男子7名、女子7名、マネージャー(二年女子)1名、計28名で活動しています。男女合わせて一つの部ということになっていますが、練習は男女一緒ではありません。

さてバドミントンというと、道ばたや野原でやっている羽根つきを、思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。現在のバドミントン部の中にも、そう思って楽な気持ちで入って来た者が何人かいました。しかし、実際は一分間に十・六カローリも熱量を使う激しいスポーツなのです。(ちなみにテニス是一分間に六・二カローリ。)当然、そのための強く柔軟な体が必要な訳です。男子の場合を見てみると、一年生のうちは補強が主な練習となります。今年の一年生は、最初20名近くいたのですが現在の7名まで、人数が減ったことからもその補強の厳しさがおわかりになるでしょう。もちろん補強だけでなく、バドミントンの基本ストローク、それからフットワー

女子バスケット部

私たち女子バスケット部は、二年生五人、一年生八人、マネージャー一人の計十四名で、毎日一生けん命練習に励んでいます。

今は、春の学徒大会を目指しています。新人戦の、草加との試合で、惜しくも一点差で負けてしまったこともあり、よけいに燃えています。練習は基礎体力をつけることや、個人プレーをみがくことで、主に走ることです。練習は、苦しいものですが、終わった後は、「練習をやった。」という充実感を感じ、とてもさわやかな気分になります。また、先輩と後輩がとても仲良く、冗談をとばし合ったりします。

そして、たくさんの良きOBの先輩方の指導のもとで、県大出場を目標にがんばっています。

☆——対戦成績——☆

学徒大会
越谷北 49-31 三郷
越谷北 54-71 不動岡
越谷北 36-44 不動岡
越谷北 39-71 越ヶ谷
越谷北 33-56 羽生第一
越谷北 56-20 庄和
越谷北 39-71 越ヶ谷
新人戦第一次予選
新人戦第二次予選

クなどの練習も行います。二年になると、コート内の技術的な面の練習が主となってきます。

さて、練習は、月曜日から土曜日の放課後という事になっていますが、朝練等も行います。すでに中学校でバドミントンをしてきた者は知っているとと思うけど、シャトル(バドミントンの羽根の事)を打つのは気持ちがいいですよ、とても。

最後に、昨年度新人戦の成績は県大出場ダブルス一組、シングル一名。



男子バレー部

我々男子排球部は、先代からの目標である、文武両道・質実剛健・自主の学びやに今年新たに、臥薪嘗胆を加え、日々練習に励んでいます。部の構成は一年生が八名、二年生が八名、マネージャー一名であります。顧問は、体育の大貫先生と英語の野沢先生であります。それでは、我々の代の今日までを振り返ってみますと

七月 夏季合宿
八月 国体東部地区予選

八月 国体県大会出場(ベスト8)
十一月 一年生大会
十一月 新人戦第一次予選
十二月 冬季合宿
となっております。

昨年は、好運にも県大会ベスト4で、念願の関東大会出場を果たしました。今年は、関東大会出場はもとより、まずは、一勝を目指しています。これを最大の目標として、また部員一人一人が自覚を持ち、自分の役割を果たし、常日頃、精神的肉体的向上をはかり、チーム全体で物事にぶつかっていくことをモットーとしております。今のチームの難点としてブロック力・レシーブ力がありますが、これを大貫先生や野沢先生、そして数多くのOBの先輩方の御指導のもとに、これらの難点を克服し、ぜひ目標を達成したいと思っております。

女子バレー部

我ら女子バレー部は、部員全員が、みなさんの入部を心からお待ちしております。部員は、多ければ多いほどいいのです。では、女子バレーをかいつまんで紹介させていただきます。

活動内容

月曜日……基礎練習(校内体育館)
火曜日……定休日
水曜日……補強・基礎(校庭)

名(2年5人、一年17人)がボールを追いかけている。そして、マネージャーもよくやってくれている。練習は、定期テストの期間中と、冬休みの自主トレーニングをのぞいて、ほとんど毎日行なわれる。練習内容としては、ランニング、体操、キャッチボール、トスバッティング、フリーバッティング、バント練習、守備練習、ダッシュ、鉄棒などで、かなりハードである。

春に一回、夏に二回、秋に一回の合計四回の大会があるが、みなさんご存知の夏の大会に最大の目標をおいて、励んでいる。まず部の根本的な課題は、身体的・精神的にりっぱな人格を形成することである。しかし、勝負をすれば、結果で判断される。やる以上は勝たなければ話にならない。伝統がほとんどない部だけに、「オレたちがやるんだ」という気構えのぞんでいいる。何ものんべんだらりとした高校生活を送るのなら、今は苦しいが将来に野球部での経験が何かの役に立てば、野球をやっていてよかったと思うはずだ。いや、きっと役に立つ。本当に野球が好きなら、実際にやってみてほしい。そして、一緒に北高野球部を強くしようじゃないか。

陸上部

我々陸上部は、二年生男子七人、女子四人、一年生男子八人、女子二人の計二十一人で毎日活動しています。練習は月曜日から土曜日の放課後に行います。

木曜日……応用練習Ⅰ(体育館)
金曜日……補強(校庭)
土曜日……復習(体育館)
日曜日……応用Ⅱ(体育館)

私たちのチームは、決して背の高いチームではありません。が、守りのチームとして、レシーブ強化に重点をおいています。攻撃面では、低身長を、カバーするために、攻撃の種類を増やしています。そして、だれもが、どこからでも、打てるように、一応のポジションは決めています。すべての攻撃を、皆が、練習しています。

そして、今年は、念願の県大へ、二度も、出場することができ、三度目を、ねらって、がんばっています。OBも、コーチとして、就いて下さり、充実した練習が、行なわれていると思います。精神面においても、礼儀を重んじ、規律のある部活動を、心がけています。是非 女子バレー部へ！

野球部

本校野球部は、本校が創設された年から発足した本校で最初の部活動である。当時は、練習よりもまずグラウンドの整備だったそうであるから、それに比べれば現在は実に恵まれた環境であるといえる。そんな環境の中で、増田部長、井桁監督、諸OBの下で、部員22

主な試合としては、春に学徒大会、埼玉選手権、夏には、国体一次・二次、秋は新人戦、四地区対抗などがあります。

部活に入って一番養われるものは、やはり人間にとって重要な耐力ではないでしょうか。一生に一度しかない青春に部活は必要なのです。

「走る!!」ということはあらゆるスポーツの原点です。もちろん練習はとも苦しくつらいこともありますがそこを耐えてこそ立派な人間が形成されていくのです。走り終った時の感動は陸上部しか味わうことは出来ないでしょう。

また、私たち陸上部は、先輩と後輩の仲が良く、個性豊かで、すぐ冗談をとばしたりしてとても楽しいです。しかし、いざ練習となるとみんな表情が一変して真剣そのもので練習にうちこみます。この時のみんなの姿はとても素晴らしいものです。これこそ青春です。人間は、何かにうちこんでいる姿が一番美しいといわれますが、中でも走っている姿が一番美しく感じます。

夏は炎天下の中、冬は寒さが厳しいですが、その練習を乗り越えてこそ、真の実力を勝ちとることができるのです。私たちは今、大会に向けて燃えています。頑張っています。関東大会をめざしています。

さあ、君も走ってみてはどうでしょうか。力一杯走り抜いてみませんか。きっと走ることの良さがわかるでしょう。「走る!!」ということが好きな人、やってみたい人、是非陸上部へ。なおマネージャーも募集しております。

文化部・同好会

アマチュア無線部



日本はアマチュア無線（略してハムといいます。食べられません、念のため）愛好者の人口が世界で一番多い国でして、全国で約四十万人の人が電波を通じて交信を楽しんでいます。これを読んでいる人の中にもハムをやっている人がいます。しかし、大部分の人達は「無線は電気がことがわかる人達だけがするもの」と決めて、たとえ興味があっても「電気のことはわかんないよ」と言ってあきらめがちです。あなたはその一人ですか。でしたらそんな考えは、即、すてて下さい。当部では女性にでも簡単にハムの免許が得られるような、国家試験に向けての熱心な指導（一人では解らないところも、きちんと説明し、「試験対策・完全丸暗記問題集」

から「金属バット（愛のムチ用）」まで使います。をおこなってありますので、オームの法則のわからないあなたでも、当部に入ってもこの指導を受ければ必ずハムになれます。

その他に当部では、有免者によるコンテストへの参加、アンテナの製作、ラジオの修理、身の上相談……などいろいろな活動もしておりますので、二度とは言いません、一度でいいですのでのぞきに来て下さい。決して食べたりしませんから（女性の方はご注意ください。狼が数匹いますので）。二一八教室あるいは放送室のロッカーの前で待っています。

。生徒会長推薦！

。ハムを通じて友を沢山つくろう！

。大空が君を待っている！

de JGIYAS.

E・S・S部

こんにちは、みなさん。E・S・Sです。ただ、単にE・S・S・Sと言ってもよくわからないかと思いますが、主な活動内容をこれから紹介します。その前に部員は全部で十二人。学年に関係なく先輩・後輩などの上下につながりがとても強いところは、うちの部の特徴の一つとして掲げておくべきでしょう。一学期は主にタイプライターの練習をしたり、英字新聞を書いたり、英語劇の練習（これは、まだはつきり決まっていますが、たぶんそうなるでしょう）をしたりします。夏休み前などには、文化祭の予定をたて

たりもします。夏休みには、学校外へ合宿に行く予定もあります。はつきりした目的は、まだ決まっています。

夏休みの後半から二学期前半にかけては、文化祭の準備が主体となります。去年の文化祭は、人数不足で英語劇はできませんでした。展示の方で英語の部屋というのをやって、なかなかの好評を得ることができました。これが終わると11月下旬ごろに埼玉県の英語劇発表会があります。さきほども、申し上げました通り、まだ参加するかどうか、はつきりしたことはきまっておりませんが、たぶん参加することになるだろうと思います。

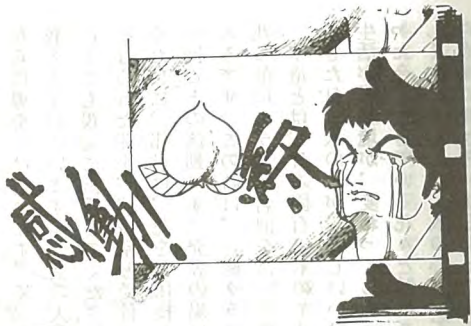
三学期は、一学期と同じようなことを行います。またこの一年間のうちに何かと理由をつけては、みんなで集まって、飲んだり、食べたりします。このようにうちの部は、楽しい性格の人が多いので平素の活動にも笑いがたえません。とても明るく楽しい部です。

最後に、「E・S・Sは英語が関係あるから。」などと言って、逃げないで、一度、生物講義室までのぞきに来てみてください。たしかに、多少は英語が関係していますが、残りの七割から八割は、冗談や笑いで保たれている部なので……。

映画研究同好会

こんにちは、映画研究同好会です。

我々映画が発足してから一年半になりますが、現在の会員は15名です（いずれも美男ばかり）。昨年度の活動内容は主に会誌「オスカ」の発行ですが、会誌といっても難しい映画評ではなく、自分



の素直な気持ちをあらわしたものです。昨年の最大の功績は何といっても映画製作でした。その名も「桃太郎侍——にせ桃太郎事件」これは文化祭で公開されるものすごい反響を呼びました。

さて、今年の活動予定は、会誌の発行数のup、名画観賞会、さらに文化祭にむけての映画製作も現在検討中です。今年には思い切った部昇格しようとみんなで燃えとりませう！

ところで、みなさんは映画と聞くとき、なにか映画評論家ぶりっ子して、偉そうに難しいことばかり言っている連中の集まりだ、などと思う人もいるかもしれません。が、決して我々はそうではありません。ただ映画が好きで好きでたまらないという連中ばかりが集まっているのです。我々は映画は独断と偏見で観るものだと思っています。評論家の意見や興行成績にとらわれず主観で観るといのが、我々のモットーです。映画は芸術だよりも「映画は娯楽だ」でいいと思うのです。

大きな歴史を持った映画館が相次いで閉館されていく最近、我々にとってはとてもつらいことです。映画の黄金時代はもう来ないのか、低迷している映画界、これでいいのか、いや、我々映画ファンが一体となって新しい時代を築き上げていこうではありませんか！

映画が好きな人、何も知らなくていいのです。ただ映画が好きならば、いっしょに語り合しましょう。

※演劇部

私達演劇部の現在の部員数は11名。少人数ではあるが、それだけにまとまりのある部です。練習内容は、基礎練習（発声・体操、メイク、台本のよみあわせ等）。

コンクール・文化祭や予餞会などの発表作品に取りかかると、キャスト（役者）だけではなく、スタッフ（裏方）も大わらわ。衣裳や道具・小道具・照明や効果のプラン立てなどやることはいっぱい！ だけどこんなに楽しくて充実した忙しさは、我が部だからこそ得られるのでは？！

さて、演劇って聞いただけでも毛嫌いしている人はいませんか？ そういう人は是非、演劇部をのぞいてみて下さい。一度でも劇を作ったことのある人ならわかると思いますが、幕がおりてゆく、あの瞬間、みんな苦勞して作り上げた劇がおろろろとしているのです。人々の拍手の中、静かに幕がおりた時、言いたい喜びに酔いしれるのです。

このような感動は自分自身の体で感じるものだと思いますが、私達は少しでもみなさんに、演劇のすばらしさを知ってもらいたいです。そしてもっと演劇は、身近なものだと思ってもらいたいです。あなたも私達と一緒に感動を味わいませんか？

PLAY CLUBこと 演劇部をよろしく！！

このできるいけばなどは、とてもすばらしいものです。

華道部では現在部員を募集しています。やってみたいと思う方は金曜日の放課後に被服室まで、どうぞ。

※ギター部

ギター部です。現在の部員数は三十六名で、我校の中でもなかなか多い方だと思います。顧問は内田静代先生、それに去年から顧問になられた星睦夫先生のふたりです。

普段の活動は、主にコンサートのためのグループ練習です。その他に、もう我が部にはなくてはならない存在の全体練習があります。話して説明するよりも一度君たちの目で、耳でたしかめてみよう。ぜひ見学にきて下さい。

さて、そのコンサートですが新入生歓迎コンサートをはじめとして、サマーコンサート、メインのしらこぼと祭、クリスマスコンサート、それに、昨年から行うようになった慰問コンサートなどがあります。また、定期発表会もあります。その中でもやはりしらこぼと祭は一般のお客さんに聞いていただくこともあって、一番満足できるコンサートです。この感動を君たちも味わってみませんか？

ところで、コンサート以外の活動としては、夏休み恒例の校外合宿です。これは私たちの最大の楽しみでありかつ、最も厳しい練習でもあります。三年生はこの時点で引退ですので高校生活の一番の思い出として残るでしょう。その他、必要に応じてミーティングを

※華道部

「華道」というと、何かとても難しいもののように思っている人はいませんか。確かに、何年もやってきている人と、習いはじめてからの日が浅い人とは、どんなにやさしい形を生けたとしても、どこか違ってしまします。しかしここでがっかりしてはいけません。わが部を例にとると、やり始めたのは、全員高校一年の時です。つまり一人残らず初心者なのです。でもみんな週一回（金曜日の放課後）には、きちんと被服室に来て、いらっしやっ先生から指導を受けています。又、先生も何もわからない私達に丁寧に教えてくださいます。部活の人数が極めて少ないためか、一人一人にとっても親切に指導して下さいます。いけ終ると、先生がおいけになられた花を、校長室と受付にもっていきます。一回の部活が終るたびに、部員は、花を家に持ち帰り家で再びいけます。これが、一回ごとの活動です。発表の場はさびしいことに、「しらこぼと祭」のみです。この時は、必修クラブの人達と一緒に、各人がいけた花の前にクラスと名前を書いた紙を置きます。

華道とは、日本固有のものです。自然を見つめ、自然を深く愛してきた日本人の心が、美しいいけばなをつくりだしてきたのです。生活が、環境が、変わってしまつて、自然と遠くひき離されてしまつた今、生きている花々と触れあうこと、それらの植物を、より美しく生けることは、人の心をなごませてくれますし、自分自身の美的感覚に磨きをかけることにもなります。生活の中で自然に親しむ

行い部員同士の交流を深めています。

やる気のある人、興味をもった人はいつでも我が部へ来て下さい。もちろん初心者歓迎です。

活動場所

月：一年九組

木：社会科室

火：女子更衣室（全体練習）

金：一年九組（全体練習）

水：女子更衣室

土：社会科室（ ）

日曜・祭日を除く毎日四時四十五分から五時三十分

（ただし土曜日、冬季は五時まで）



※計算機同好会

皆さんは、計算機同好会と聞いて、どう思うだろう。きつと難しい方程式を解いたり、計算したりしているのだらうと思う人が多い

と思います。しかし、実際は、計算機同好会とは、名ばかりで、計算機といっても、マイコンに似たものを使っていろいろ計算以外のもっと広い範囲のことをやっているのです。それは、自分で考えてそれぞれのプログラムを作成することです。現在、T・Vゲームははやっていますが、あのゲームも、だれかの手によって、プログラムされたものです。

ところで、現在、計算機同好会の会員は十六名います。一年生・十一人、二年生・五人で、構成されていて、今年の四月に、「文化祭までに何か一つ、簡単な自作のプログラムを作ろう。」という目標を立てました。そのため、夏休みにそのプログラムの発表会を開いたりしました。

文化祭では、計算機関係の雑誌等に掲載されているプログラムを使用しないで、自作のプログラムを使って、学校既存の計算機その他、私物のマイコン五台を持ち込んで行いました。

今、計算機同好会では、より一層、自分の知識を広げようと、みんな、がんばっています。これからは、自分の知識をふるに活用し新しいものをとり入れていくように努力していくつもりです。

茶 道 部

んちゃ☆茶道部だ。私達、茶道部は、今年正式に部として発足されました。今までは、本校の女子を対象に、一年にせいせい十回ぐらいの活動しか行っておりませんでした。しかし、それでは、御点前を覚えることも、まして、日本古来の茶道の心に触れること

写 真 部

現在写真部は、一年生7人、二年生6人の計13人で毎日活動を行っています。写真部の活動の条件は、白黒の現像、プリントを各自でやるということです。カラーをやりたいというのが夢であり現在少しづつカラーの設備を集めようとしています。まだ微々たるものしかなくて、カラー写真は、当分できそうにありません。

今年一年間の活動内容は、四月に新入部員勧誘の展示会、五月に新入部員歓迎の撮影会と三年生の証明写真、夏休みには白馬への合宿と文化祭へ向けての作品作り、そして九月の文化祭には、全紙、半切合わせて百三十枚余りの作品を展示しました。この作品の数は年々増え続けていて、来年の文化祭はもっと多くの作品を展示したいと思っています。また今年さらには、カラースライドの映写会も行いました。そして、テーマ別の校内写真展も行いました。

特に文化祭は、活動の中心であり、そのために、撮影・現像・フィルム・ストック・暗室作業などを、日夜おこなっています。また学校行事など大きな活動の場となるわけですが、このような活動内容にもかかわらず、暗室はせまく一つしかないため、順番に作業をしながら進めなければならないので、思うように活動ができないようなことが多いのですが、部員同志の協力によってこなしています。

写真部は、写真を撮ることができて、暗室の作業の方法を身につければ、だれでも自由に活動できます。また、写真雑誌やその他のコンテストに入賞するような人もいます。その他特殊技法など、自

もできません。それで、正式に部となったわけですが、ですから、男子も部員となることのできるのですが、現在の部員数は総勢八名（三年二名（引退済）、二年二名、一年四名）で、全員女の子であります。かの千利休や、家元は男性ですから、男性の皆さんも、かまっぱいと思わずに、どんどん入部して下さい。男性が御点前をしている姿にひかれている人も若干ありますので、特に部長が…。

さて、活動日は、毎週金曜日で必クラからずーっということになりません。時間が長いので初めのうちは足がめちゃくちゃこびれますが、なれてくると、何時間でも平気になります。将来、お見合いをしなければならぬなりそーな人は、今のうちに訓練をしておいたらいいかと思います。それから週一回です。他の日は好きなことのできるわけです。それと、活動内容ですが、御点前の御稽古が主となり、あとは、ダベリングです。たまにうちわでお茶会なんぞもやっておりますので、遊びにいらして下さい。運がよければ、お茶とお菓子が御馳走になれます。それから、現在活動の発表の場が文化祭でのお茶会だけなので、新企画を思案中です。あと、参考までに申し上げておきますが、流は大日本茶道学会です。でも、べつにそれにこだわらなくても結構です。茶道歴三年と二ヶ月の部長も、実は表千家です。

さて、たわいのないことを書いてしまいましたが、おわかりいただけでしょうか。とにかく、私どももいたしましては、一緒に、茶道の本質を求め、日本の心に触れようという仲間を募集しておりますので、よろしかったら入部して下さい。まあ一度、遊びに来て下さい。 by 紫穂（実は部長）

将 棋 部

「パチッ。」
この駒音に、その一手にかける情熱がひしひしと伝わってくる。読みと読みとがぶつかり合い、微妙な所が勝負を左右する。あせりがあれば攻め急ぎ、あわてればポカッをし、あきらめれば話にならない。このような中で、忍耐力、決断力、そして大局観が養われていく。こうしてはくたちは大きくなる。

さて、理想はさておき――

将棋は、男性の人ならほとんどが知っていると思いますが、その中で、もっと強くなりたいと思っている人はどうぞ入部しましょう。いや、これでは女子をないがしろにするようですが、女子も入っていた実績がありますので、女子もどうぞ、ふるって入部しましょう。もちろん将棋が好きならば、部で活動しているうちに自然と強くなるものです。将棋が強ければ老後の趣味に十分役立つでしょう。

まあ、そんな冗談はやめて、まず、部員数ですが、一年十三名、二年十三名の計二十六名です。活動日は、月・水・金・土曜の週四日です。主に自由対局をしています。局後の感想戦も欠かせないものです。また、資料も豊富ですので、研究にも役立つでしょう。それに、定期的に県の主催する将棋の大会もあるので腕だめしめで

きるといった具合です。

「大会における実績」

個人戦 〈全国高校将棋選手権埼玉県予選〉

第四位 新井実

〈埼玉県王将位戦〉

第四位 新井実

団体戦 三チーム出場しましたが、予選で敗退しました。

✪書道部

書道なんか筆で紙にお手本の真似をして書くだけのことだ、と思
っている人はいませんか。確かに基本的にはそういうことになりま
す。しかし高校では、そういったことから一歩出て創作すること
念頭に置いています。文字を単なる意志伝達の手段とせず、それを使
って自己主張するのです。

又書道では、てん刻という工芸に少し似たものもあります。また、
パネルや絵ざらや刻字という一風変わったものもあります。去年の
文化祭では、パネルを出品したのですが、いろいろな人から好評を
いただきました。だから書道が苦手だといっても、そういう人は右
記にあるものをやれば良いのです。もちろん一番望むのは、筆で字
を書いてくれることです。

これを読んで、やる気になった人、また興味のある人はぜひ入部
してやりましょう。部活の内容紹介が、いささか入部勧誘になって
しまいました。なぜなら書道部は、学校創立以来二度目の危機にひ

✪吹奏楽部

みんな、みなさん吹奏楽部です。まず、我が部の特色を少し紹介
します。

第一に女子がたいへん多いこと。学校全体の男女比が七対三なの
に対して、吹奏楽部は八割が女子という、なんとも色気のある部で
す。少ない男子は量より質でまっています。吹奏楽部に入ればも
てることまちがいないし、部活が楽しくて、立派な大人や学生にな
れることまちがいないこと。みなさんの中学校では主に先生が指
揮をされていたことと思いますが、我部はなぜか学生指揮です。い
ろいろと問題はありますが、とりあえずがんばっています。その他
いろいろありますが、これくらいにしておきます。現在、部員は、
六十二名。五月二日に予定している第二回演奏会に向けて練習中
です。練習場所は主に音楽室です。

✪生物部

最近の生化学の進歩はめざましく、つい半世紀前には謎とされて
いた遺伝子の本体DNAの構造を明らかにし、遺伝子操作によって
ホルモンやタンパク質合成を行う遺伝子工学は、一部で実用して

んしているからです。このまま、君たち一年生諸君が奮気してくれ
なければ十中八九部は抹殺されるでしょう。そこで正直に現状を報
告しますと、今活動は停止状態です。全部員の100%が三年生だ
からです。ですから、一年生諸君、なんとか部の後継者になって下
さい。思い起こせば今から三年前、書道部はこのような状態になり、
現部長である僕がなんとか三年間もたせたといった有様なのです。
文化祭に来て書道部がないなんて、さびしいから。

入部希望者は、顧問の小松崎先生まで。では北高よ、さらば!!



るほどのものとなりました。このようなことから、生化学はもは
や生活とは切り離せなくなってきたのです。

我部では、そのような傾向を反映してか、生化学的な実験等に特
に力を入れた活動を行っています。例えば、ニンジンのカルス培養、
ウニの発生観察、アルコール発酵等は、そのよい例です。

それと並行して、今では古典的といわれている生態観察方面の活
動として、我高の校章で、貝島でもあるシラコバトの観察を、合宿
では自然生態系の調査を行います。今後活動は、生化学を中心と
して、バラエティーに富んだものと、なるでしょう。

✪箏曲部

こんにちは箏曲部です。
「箏曲」というと、何となく敬遠する人が多いのではないでしょ
うか？

箏というのは、元来日本古来から伝わる楽器で、学べば学ほど
に深味の出てるやりがいのあるものなのですが、それだけに、「か
たくるしい」とか「女らしい人のやるものだ」というような考えを
持つ人が多いのではないのでしょうか。しかし、それはとんでもない
思い違いです。そのよい証拠に、我が箏曲部の部員は「女らしい」
などには程遠く、それ故に、我々の手元にある箏は伝統的な琴から
伝統十現代的な琴へと変わりつつあるのです。

我が箏曲部は部員全員が女子という、我校でもひとときわ異色の部
活動です。練習日は毎週金曜と日曜を除いた五日間で、特に水曜日

は校外から先生をお呼びして練習を行います。他の部活動のように、月に何度休んだからとか夏休みの練習に來なかつたからとかの理由でくびにしたりはしませんし、毎日真つ暗になるまでやることもありません。琴というのは短時間に集中して練習することの積み重ねなのであって、だからだとはけて練習してはうまくありません。(と思いません。)

とにかく、入部する部活を決めてもらっしやらない方、お勉強にさしきわりのない部活をご希望の方、入部する気がある方もない方も、特別棟一階にある和室までお越し下さい。部員一同、首を長くしてお待ちしております。尚、楽器を所持する必要はありません。

※ 鉄道研究同好会

我々、鉄道研究同好会は、今年できて二年目の新しい同好会です。現在、初代顧問の河原先生に代わり、元立教大学鉄研のOB、社会科担当・新任の荒井先生に代わり、鉄道に関する知識人を得て、また、生物担当・講師の堀江先生に模型などその他、たくさんのアドバイスを受け、結成初年度よりも、増々活動は盛んになりました。現在、鉄研の会員は二年生8名、一年生8名、計16名が在籍しております。各会員それぞれ、鉄道写真を楽しむ者・鉄道模型を楽しむ者・旅行好きの者、まあ、この様にいろいろといるわけです。

今年の文化祭は、去年にも増して、Nゲージレイアウトがまじめになり、H0ゲージの運転会を行なえたこと、自分達で現像した写真を出せたことなど、去年より一層、充実した文化祭になったと確

※ 天文気象部

読者諸君にたずねます——この世で一番大きなものは何でしょうか。天文気象部が聞くのだから、答は当然「宇宙」ということになります。では、地球の気象圏外へ出たことはありませんか。おそらくはいずれです。それでは、外へ出て、地球大気の影響を全くうけてない星空を見たいと思つたことはありませんか。そうできないまでも、せめて一歩でもいいから、本物の星空へつめよりたいと思うことはありませんでしたか。

今あげた最後の質問の「せめて一歩でもいいから」という空に対する憧れをいだく人々の集合体が天文気象部です。

読者の中には、天文気象部って難しそうと思つてる人がいるかと思つますが、実際天文気象部の天文学は、理論ではありません。だから、太陽の観測以外は昼間やることができます。(本当はあるけど説明めんどうだからやめる)そこで、気象学をやるわけです。なにほつきり言つて、これはちよつと部でもきらわれもなんなんです。なにしろ、理解するのもやるのもひと苦労なんです。例えば、天気図はどんなに素質があつても、完全にマスターするまで、6ヶ月はかかります。まして、予測などは、部でも数人しかできないほどのです。

この気象学に挫折して、やめた人が何人かいました。その人達はいたい観測会にも出ずやめました。何故でしょう。それは読者である皆さん考えて下さい。部の人たちは、長く部活に出れば出るほどひょうきんになっていきます。

信じています。(学校の人間がどう思つてるかは知らぬが……)。

ここで鉄研の活動の内容を紹介しますと、①レイアウト・模型の製作・文化祭に出しましたレイアウト、それなりの出来でしかありませんでした。②写真の現像・生物部のご好意により実現③撮影・見学会・鉄研夏の東北大旅行をメインとして、身延線・飯田線撮影会・青梅線撮影会などを行いました。また、鉄研は個々の自主性を重んじるという方針から、個人個人南は、四国・中国から、北は東北まで、日本中を荒らしまわる鉄研なのです。また見学会として東京機関区に行く予定です。(これが出る頃には行つてきてしまつてはいるだろう)④調査・研究、これは今年一年最も重要なことであります。あの『鉄研ジャーナル』誌に二度も掲載されたことでもあります。これで北高の鉄研は日本中に名をとどろかせたわけです。(と、思つてるのは私だけだろうか……)

こんなわけで紹介を終わりにします。最後に、鉄道の好きな人、旅行の好きな人はぜひ鉄研へ、皆さんも鉄道を通じて友達になりませんか。



現在の活動状況は、毎月の観測会と当番で黒点観測などやっています。このような作業的なことに、学生としての生きがいを見つけないようにしている部員は数少ない。でも、当番がいやだとは言わせない。観測会という自分の楽しみなことだけを追求するのは、あまりに勝手すぎることもみんなわかっています。

もう一度諸君に問います。——あなたはじっくり星をながめたことがありますか。

※ 美術部

我が美術部の活動というのは、一応、毎日、午後三時十五分、つまり放課後すぐに始まり、夏は、四時三十分、冬は、五時三十分までを活動時間としております。活動の内容としましては、主には油絵、そして、パネル、デッサンなど、結構広い範囲で活動を行つております。年間の活動行事の主なものには、春休みより、デッサン大会、五月には県展といわれている埼玉県展覧会に出品、夏休みには写生旅行、人物画、九月に、メインである文化祭、そしてそれが終ると十一月には高校美術展へと向かい、二月に、全日本学生美術展となっております。春休みのデッサン大会とは、休業中の一週間を使って、何人かで、同じ石こう像を描き最終日にそれを皆で批評するものです。県展には、一応自由参加で、出したいもののみの行事であります。夏休みの写生旅行は、例年では、二泊三日の泊まりだけで、風景画を描くという、目的で行くもの、人物画はある期間中

に、モデルを頼んだりして、それを描き、文化祭は、北高にとって
は勿論ではあるが、美術部にとっても大事な行事のひとつである。
高校美術展は、埼玉県の高校生が、自分の校のレベルと他校とを比
較できる、機会である。

部員総数35名。活動場所は、特別棟三階美術室
とにかく、月並みではありませんが、絵が好きな人、何かを作るの
が大好き人間なら大いに結構、そういう人は、ぜひ、のぞく程度で
もよろしいですから、いらしてください。

—END—



文芸部

なぜ私が「しらこぼと」の原稿を書かなければならないのでしょ
うか。私は詩集の原稿も「人間」16号の原稿も書いていないとい
うのに。まあね、部長じきじきのおたのみとあつては……。あーっ部
長！、そ、そんな目でにらまないで。真面目に書きますから。
ではまず最初に我が偉大なる文芸部部室の場所についてご説明致
しましょう。

漫画研究部

まず、いつも元気なマン研の活動内容を説明します。

一学期：新入生歓迎展示会 二学期：文化祭・同人誌発行

三学期：展示会、その他、雑誌編集部訪問、他校との交流会、

部員間の親睦を深めるためのレクリエーションなどを行ない
ます。普段はペン練習からクロッキー、三題マンガなどいろ

いろと……。お菓子のさし入れもありますよ。

今回はマン研より愛をこめて、メッセージ

生徒諸君！今やマンガ文化の花ざかり。くだらない作品もあるが

素晴らしいものも沢山ある。ラブ・ロマンス、歴史物、S・F……

ちょっとおとき話を書いたり、しあわせ色の風景をマンガに描いて

みたり……。あこがれ雲を追って、はるかなる夢の国へ行ってみよう。

はみだっしもうる星やつらも、マンガが好きなら、はい！どうぞ

マン研へ。いざ、君もペンと紙を持ち、放課後の書道室（活動場所

です）で、青春の坂道のはれ！現在、3年生4人、2年生9人、1

年生6人で、引退した3年生をのぞくと、ふたりと5人ならぬ、女

子2人と男子13人。月曜日・金曜日迄、皆でマンガ道を突走ってい

る。中にはさばり部員もいるが……。テストがあろうとなかろうと、

がんばれ元気な北高生。やる気のある人求めます。

問題 このメッセージ中に、マンガの題名がいくつ入っているで

しょう？ わかった人えらい！

さて、今あなたは北高の校門前に立っているとしましょう。校門
から左側の芝生沿いにしらこぼと会館に向かって歩きます。そして
会館から流れてくる食べ物のおいに誘われぬように自転車置場
を突っ切ります。そのとき、走ってスピードを出しすぎますと、奥
にある焼却炉にぶちあたりますので要注意。えっ？もう遅い？ごし
ゅうしよう様。ぶつかりましたら右。90に転針し、約40歩歩きます。
するとプレハブの建物が一棟。その右から二番目にある「文芸部
庵」という看板を下げた部屋が我が大文芸部部室です。

ところで、私たち文芸部部員は週5日（文芸部は原則として週休
2日制です）。この部屋にこもって活動しているわけですが、その内
容とは、月一回の読書会、それに定期的に開かれる写生会（「一つ
一マを決め、作品を書く。）、そして何といても文集「人間——ひ
とま——」の発行です。「人間」は年に三冊のペースで発行してい
ます。みなさんがこれを読んでいる頃は新入生歓迎号が配布された
あとでしょう。「えっ！？僕、もらっていないよ。」という方は文芸
部室にお越し下さい。

あ、一つ忘れておりました。我が部の部費は恐怖の100円です。し
かし、たった100円の部費でもその取り立ては極めて厳しいものです。
みなさん、高校時代に何かを残したいと思いませんか？ ならば
「人間」です！！「人間」は半永久的に残ります。文芸部へどうぞ！！
（以下省略）

ユースホステル同好会

私たち、ユースホステル同好会の活動は、簡単に言えば、ユース
ホステルという全国各地、世界各国にある若者向けの宿泊施設を利
用して、旅行を楽しむことです。簡単に言えば何もかも、それ以外の
ことがあるわけではないのですが、このユースホステルを利用して
の旅行には数々の魅力があります。

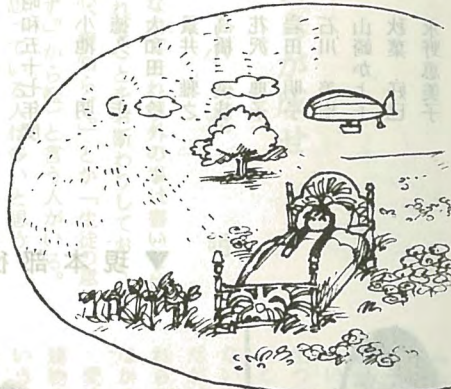
まず第一にこの宿泊施設の料金が大変安いということです。一泊
二食付で三千円弱。このような安い料金で泊まれる施設が現代の世
の中にあるのです。ホテルなどに泊まれば一泊しかできないところ
を、ユースホステルを利用すれば三泊四日の旅行が楽しめます。

第二に、今まで顔を見たこともなかった人とすぐに友達になれる
ということです。ユースホステルを利用して旅行しているような人
達は、話をしていて楽しい人ばかりです。また、旅先で同郷の人と
会ったときの驚きや喜びもユースホステルならではの知れません。

旅は楽しいものです。旅先で見聞を深めたりするのも大変素晴ら
しいことですが、それよりも何よりも心が洗われます。そして自由
が得られます。もちろんユースホステル内でも飲酒や喫煙は禁じら
れていますが、そんなことではなく、周囲に自分のことを知っている
人がいないので、失敗を恐れずに色々な事を楽しめます。「旅の
恥はかきすて」という言葉の通り、ホステラー（ユースホステルを
利用している旅行者）やペアレントさん（ユースホステルの管理人、
旅先での親代り）と一緒に大声で歌を唄ったり、ゲームを楽しんだ

生徒会

委員会



いびきと歯ざり
はやめよう!!



合唱同好会

り。暗い気持ちなんて必ず吹き飛んでしまいます。
これで私の紹介は終了です。あとは皆さんで確めて下さい。自分自身でユースホステルの良さを実感して下さい。旅をしましょう。

こんなあったか? と言われそうですが、実はできたてのほやほやなのです。

一年ごしの合唱研究会?が今年から合唱同好会として活動することになりました。現在は、人数不足にもメゲず混声四部合唱をやっています。日常の活動は、月曜日から木曜日の放課後三時五十分からはほぼ一時間、音楽室で行っています。内容は、発声練習から始まり、パート練習、全体練習などです。

年間の活動として、校内演奏会・埼玉県合唱祭の参加・しらこぼと祭参加などを予定しています。ただ、これらを実行するためには、より多くの人を必要とします。

今は草創期にあたるので、何かと苦労も多いかもしれませんが、わが北高に新しいものを残すべく、私たちの歌声をひろげていきますか。

合唱は、各パートの各人が最も大切な存在です。

そして、合唱の喜びというのは、一人一人の心と心、声と声が集まれば集まるほど、大きなものとなるのです。

歌の好きな方、興味のある方、また、これを読んで少しでも関心を持った方ならば、経験の有無を問わずぜひ一度、音楽室までおい

下さい。

ユースホステル同好会



INDEX

生徒会役員一覽

生徒会本部	67
学芸	70
新聞	70
選挙管理	71
体育	72
放送	72
生徒会誌編集	73
生活委員会	74
図書委員会	74
保健委員会	75

昭和五十六年度

相馬 陽一	会長
市川 硬一	副会長
新井 義宣	副会長
千把 幸夫	庶務
鈴木 健彦	庶務
馬籠久美子	庶務
後藤 由美	庶務
田中 真弓	庶務
桜井 義昭	庶務
嶋田 繁	庶務
浦井 朱美	庶務

昭和五十七年度

小池 明	会長
徳久 圭	副会長
大和田 稔	副会長
景井 雅之	庶務
高橋 俊哉	庶務
花沢 典子	庶務
岩田 明子	庶務
石川 美樹	庶務
山崎かよ子	庶務
秋葉 好巳	庶務
永野恵美子	庶務

▼現本部役員



人を責める事は自らが成せ

会長 小池 明

ここは生徒会について記すページなのでそれ以外の事は書いてはいけないのだが、あらかじめ話のずれることをお断わりしておく。最近では少なくなつたが、「子の心、親知らず」とか「生徒の意師は知らず」(共に「親の心、子知らず」から転)と言う人がいる。現在でも口に出さないうまでも同様に思っている人は多いと思う。ところで、生徒会行事がある度に、多くの人から生徒会本部が、学校がいけないという声を耳にする。我々も確かに至らない面が多いと思う。学校側も確かに不理解な面が多い。しかし、学校や本部役員を非難することが彼ら(あなたがた?)にできるのだろうか。果たして彼らは積極的に行事に参加していたのか。例えば校歌について見たらどうだろうか。さきほどの例のように「学校側は生徒の意見がわかっちゃいない」と言っている人たちの中には、北高生のくせに北高校校歌を歌えない人はいないのだろうか。なぜ校歌を歌えなければいけないのかという人もいるが、高校入試のころ、校歌をうたう義務も含めてこの越谷北高を選んだのは自分自身ではなかったのか。

生徒会役員になつて

副会長 徳久 圭

ほくが生徒会役員になつて感じたことは、自分が思っていたよりも、もっとたくさんの方が、本部の活動にかかわっているんだな、という事である。ほくが最初にというより今まで生徒会に対して抱いていたイメージ(まわりの人たちも同様の見方だったが)は、生徒会本部は、役員だけが仕事をやっているということだった。とこ

また愛校心に欠ける面も指摘できる。校内で平気でゴミをすてる(もちろん校外でもゴミはきちんと処理すべきた)のもしかり、校歌を歌えないのもしかり、評判など気にしていない校外での傍若無人な振る舞いもわかりである。果たして自分の母校を良くしようという気持ちはないのだろうか。越谷北高出身というレッテルは一生ついてまわるといふのに。こうして書いてくると、中には「生徒会行事の不成功(失敗ではない)をたなにあげて人の事を責めている」という人もいるだろう。だが、愛校心や校歌なくして生徒会行事が成功し得るだろうか。これらのものは、数ある生徒会活動や学校活動に欠かせないものではないだろうか。愛校心を持つ、校歌をうたえるようにする等というのは、言わば建物の基礎、木の根のような存在である。我々に課せられた使命と云うのは、今まで育ててきた越谷北高の生徒会活動、または先輩方の努力である大樹を根からたおさないようにすることなのだ。

ろが、実際、自分がその立場になってみると、意外にそうではなかったのである。本部役員以外の人が、それぞれ自分の仕事に一生懸命なのはびっくりした。というよりとてもうれしい気分になってしまった。(実を言うとはくは生徒会の仕事に対して不安だったのだ。)しかし、ばくは反面、今まで知らなかった生徒会内部の事情をも感じてしまった。確かに本部だけ活動しているようなせせこましい生徒会ではなかったが、あたり前だが、かかわっていない人はそれこそ生徒会室がどこにあるかも知らない程、かかわっていないのである。またかかわるべきであるのかかわらない人もいる。例としては、北高生徒の最高決議機関であるかの評議員会である。評議員が定数に満たなくて、流会になったことが何度もあった。さて、こういった状況をいかに改善するかである。生徒会本部でも連絡を密にするなど様々な対策をやっているが、ばくはなによりもまず本部(と言うより自分たち、あるいは自分自身)がしっかりすることだと思っている。一國の首相格の人がしっかりしていないと国勢が乱れるのと同じように、まとめ役の生徒会がだらしなくてはとうてい活発な生徒会は望めないだろうと思う。生徒のみなさん一人一人が、自分は生徒会活動に活発に参加しているという意識が定着するよう(大目標ではあるけれど...)また自分もそういう気持ちを忘れないように頑張っていこうと思う。



生徒会役員になって思うこと

庶務 花 沢 典 子

某友人から「会長が会計をやってほしいんだって」と聞き、私は一瞬我が耳を疑った。「会計」。私の数学の成績を知らんから、そんなアホなことが言えるのだ。ソロバンだって、小学校から徒歩三分の所に我家があったので、よい子が通う時間帯に通えない。故に未だにできるのは足し算だけという、悲惨な算数人生を送ってきた私に「会計」。

しかし、「庶務ならやってもよいな」と秘かに思うところもあった。何をかくそう私は生徒会役員選挙の公示を見た時、「立候補しようかな」との思いが脳裏に浮かんだのである。(立候補しなかったのは賢明だったと、生徒会内部の人間になって痛切に感じる)そんな私であったから、小池会長と大和田副会長直々の勧誘があった時既に「やる」という気持ちが高まっていった。入ってみて感じることに。「教師の存在が大きい」。予銭会で、Mr & Miss北高、Mr & Miss体育祭etcとアンケートをとって相応しい人を表彰する、という本部案が、予銭会実行委員会は通ったのだが、職員会議で「表彰の基準が明確でない」ナドの理由でハネられてしまった。お陰で予銭会では目玉がなくなり……愚痴はやめよう。

個人的には視野が広がった。生徒会という頂点からものを見るので、自分の回りの小さなことに囚われなくなった。ものの見方が明らかに変わった。数学の成績は相変わらずだが。(それもその筈、

生徒会役員になって思う

副会長 大 和 田 稔

最近、埼玉県内、いや全国において教師と生徒の間の不信感が非常に高まっている。教師が生徒を信じられず、生徒も教師を信じられない……。そんな状態でいったいどんな教育ができるのだろうか、また、いったいどんな学生生活を送れるのだろうか。

北高の先生方に問う。どこまで生徒を信じられるのか。北高生に問う。どこまで先生方を信じられるのか。

こんな状態は打破されねばならない。自分自身のために、それには一対一のコミュニケーションも必要であるが、それだけでは教師と生徒の接近は望めない。

教師と生徒は信頼関係で結ばれるべきである。それには、生徒は教師に信頼されるよう努力すべきである。「あいつらならば信頼できる」と思わせることである。生徒をそういった方向に向けてゆくのは教師だけではない、「生徒会」という機関もそうである。もし自分たちの希望(エレキをしいたい等々)をかなえたいのなら信頼を得た上で交渉するのが最も望ましい。ただし、生徒が信頼を得ようとするならば、教師も絶対にそれに応じねばならない。

現在の状態では両方が同時に歩み寄ることは想像できない。どちらかが最高の少の痛みを覚悟して歩み寄り、それにこたえてもう一方が確実に歩み寄ることである。

私は結局庶務になった。

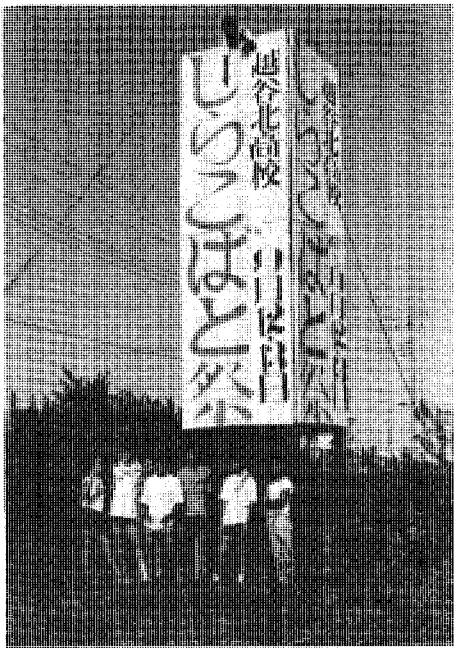
任期もあと半年強。九月にはしらこぼと祭が我物顔でふんぞり返っている。本当の仕事はこれからだ。ああ生き地獄。

昭和56年度 生徒会活動経過

- 四月 九日 対面式
- 十日 一年生オリエンテーション
- 二十三日 評議員会・審査部選出
- 五月 十五日 生徒総会
- 三十日 評議員会・茶道部、華道部の承認
- 六月 二日 しらこぼと祭実行委員会設置
- 三日 体育祭実行委員会設置
- 七月 十六・十七日 球技大会
- 九月 十二・十三日 第十一回しらこぼと祭
- 十七日 第三回体育祭
- 二十日 評議員会・選挙管理委員選出
- 十月 十五日 選挙公示
- (十六日) 競歩大会
- 十一月二十五日 立合演説会
- 二十六日 投票・開票
- 十二月 四日 補欠選挙(二年副会長)
- 十六日 評議員会・役員承認——生徒会本部発足
- 二十四日 評議員会・卒業記念品がコーヒーマップに決定
- 予銭会実行委員会設置
- 二月 二日 予銭会

生徒会運営の委員会

※学芸委員会



学芸委員というよりも、仕事人と言うほうがぴったりするのが、この委員会である。しらこばと祭と予餞会の時期になると、自分の体が自分の物でなくなり、目が血走り、普段おとなしい者をも、ひどく怒りっぽくさせてしまう地獄の集団である。仕事の内容を具体的に紹介すると、文化祭の時の後夜祭・中央会場の会場設営、ゲー

さて新聞委員会と言うのは、新聞を発行する委員会であるが、これもまたすごい。一体何がすごいのかと言うと、聞いて驚くなかれ、活字、写真入りの新聞を発行するのです。すなわち、現在私達が毎日目を通すあの朝日・読売・毎日・東京・日経……etcと同じ型の新聞なのです。中学校で作ったガリ版刷りのわら半紙新聞と違うのです。ここまで読んで興奮を抑えきれずに、即、新聞委員会に入りたいと思う生徒さん、今しばらく抑えてください。

話は変わって活動内容ですが、これがまたまたすごい。何がまたまたすごいのかと言うと、ハード!!ハード!!のこの一文字。まず一学期には、超豪華版の新聞、すなわち前に述べたような活字、写真入りの新聞(二面)を発行。また、新聞連盟総会に出席及び東部地区においての新聞合同合評会にも参加します。

次は二学期。二学期これももうすごい。何がもうすごいのかと言うと新聞コンクールの参加です。優れている高校は表彰され賞品授与、そして埼玉新聞に載るのです。二学期は活字の新聞を発行しますが、変わりにガリ版刷りの新聞を発行します。

三学期は、すごいを通り越して死にます。なぜ死ぬかと言うと、あの超豪華版の新聞を4面も発行するのです。これを読んでいるあなた、感動のため泣きたいでしょう。泣きなさい、大声で泣いても良いのです。まだまだ付け加えることがあるのですが、この短い文章の中には書ききれないので、省きます。

新聞に骨を埋めるつもりの方、是非新聞委員会に入って明日の新聞を作ってくださいませ。

トの製作、招待券の販売、記録のビデオ録り、予餞会の進行：etc. 今紹介したのはほんの一部である。先にも述べたように仕事はかなりハードであり、意志の弱い者の性格を歪めてしまう程であるが、しかし、やる気のある者、お祭り騒ぎの好きな人間にとってはこれ程楽しい委員会はないはずで、大変だ大変だと言いつら、二年間も学芸委員会に居座った自分もその一人である。

春先に委員会を選ぶ時に、よくある事だが、人気がない委員会をジャンケンで決めるといったことをしてくれるが、学芸委員だけはそういった事で決めるのはやめて欲しい。そういう人達(もちろん例外もあるが)ではまず動まらないし、かえって迷惑である。また、平気で仕事をサボる者にも困ったものである。その分だけ他人の仕事を手回されて、過労で倒れた(冗談ではない)者もいるし、そこまですでなくとも性格が暗くなってしまう者も出た。好きで学芸委員になった者は流石にあまり文句も言わないが、こういった現状を他の生徒諸君も考えてみて欲しい。学芸委員だけが苦勞をしているとは言えないが、文化祭・予餞会といった行事は、このような影の努力によって成り立っている事を知ってもらいたいのである。

いささか愚痴っぽくなってしまったが、私の高校生活のほぼ全てだった学芸委員会の紹介を終わりにします。

※新聞委員会

「ペンが剣よりも強し」と言うのが、正にその通りなのである。我々新聞委員会では、この言葉をモットーに現在活動を行っています。

※選挙管理委員会

とにかく、評議員の中の8名が、選挙管理委員を選出する時、ほくは何となく「あーいやな仕事だ」と思いました。そして何の偶然か自分も選出されてしまったのです。そして副委員長になっていました。通常選挙は10月中に行なわれなければならないのを、2年生の修学旅行、強歩大会等の行事もあり、立候補者がいなくなって出ません。そしてやっとの思いでこぎつけた選挙でしたが、なんとなんと、2年生副会長不信任という非常事態?が起ってしまったのです。時は師走の初めのことです。そして再び、あの苦難の日々、いや今思えば、それ以上の苦難の日々が待ちうけていたのです。再び立候補者を募りましたが、なかなか出ません。そして、なんと選挙管理委員長の先輩が立候補したのです。そして、それからの3日間は、地獄の苦しみだったのです。ほくが委員長を引きつぎ3日後に再選挙、そしてやっと新生徒会が発足したのです。

これは、何もほくの悲劇の物語ではないのです。そういうこともあるということなのです。自分達の生徒会なのに立候補者も出ず、そして、いざ投票となると棄権者続出、選挙管理の仕事は、当然ながら厳正且つ、公平なものでなければなりません。しかし、それだけではないのです。投票される人がいて、投票する人がいる。あたり前のことですが、わかっていないのです。投票する人は、それなりに自分の一票の貴重さを知ってもらいたいのです。その人に生徒会の大切な仕事は、まかせられない。そう思って不信任にするのは

結構なことです。しかし、何の考えもなしに、その大切な力を、あなたの力を無駄にしないでほしいのです。

※体育委員会

お待たせ登場・体育委員会

ついに参上いたしました体育委員会です。美男美女の集まり、スーパースターの集まったすばらしい委員会とは、体育委員会のことです。毎年秋に行なわれる体育祭は、我々にとって一種の課題であり、又メインテーマでもあります。今年は、文化祭に習ってテーマを募集し、その結果「燃えよ若人しらこぼと魂。」に決まり、今年から応援賞を設置し、又その結果、各チームの応援に熱が入ったことは、言うまでもないでしょう。そして、これらの出来事は、画期的な事となったのも事実です。だからこそ我々の難かしさもそこにあるのです。毎学期行われる球技会もだんだん「マンネリ。」という波におされてきています。体育祭は今年で生徒会行事として三回目という少なさのため、それほどマンネリ化が進んでいませんが中には、競技中、フィールド外であるまじき行為をしている生徒も多少いるのも事実です。生徒行事の場合、どうしてもマンネリ化は避けられません。生徒の力は、たかが知れているのですから。しかし、マンネリ化を黙って指をくわえて見ているようでは、生徒は、ただ去っていくばかりです。何かを行なう場合、マンネリ化のまま開催するものもなかなか困難であるのに新しい物を取り入れるというのは、もっと大変であります。だから、そこには、やはり、生徒の目をひきつ

ける何か、その何かをもとめて体育祭・球技会を盛り上げていきたいと思っっています。文化祭でも同様と思えますが開催前の準備というのは、とてつもなく大変です。北高生は、もう少し、その辺の苦労をわかった上で批判なり批評をして欲しいと思います。かやの外で物を言うのは、簡単ですが、やってみるといかに「言うは易く、行は難し。」であるかが、わかるでしょう。さあ、来年の体育祭の主役はあなたです。困難な物を成し遂げる喜びというものは、何事をも犠牲にするほどの価値はありますし、何事にも変え難いものです。一心に何かに没頭するということは、若さあるゆえでしょう。だから何かを求め、何かに打ちこむために体育委員会の扉をたたいて。

※放送委員会

K「うるさい／＼ 今から放送するから、静かにしろよ／＼」
一同「はい。」

ピンポン。放送委員会より連絡します。我々放送委員会は、各クラスより数名ずつ選出された放送委員により形成されています。委員会の活動内容としては、まず、お昼の放送です。委員会としては、いろいろな曲をとりそろえ、昼食時にみなさんにおどけています。曲は主に歌謡曲、ニューミュージック、クラシック、イージーリスニングなどです。次に諸行事における放送ですが、月初めにある朝会をはじめ、球技大会、体育祭、文化祭などの放送準備、運用および記録を行っています。中でも文化祭は、とても大変で、

何カ月も前からその二日間のために準備をしています。その他には、諸連絡の放送なども行っています。連絡放送は、先生、各クラブ、委員会、生徒会などの連絡事項を放送室においてある連絡用紙に書いてもらい、それを放送します。その他には、放送劇、ドキュメントなどの放送コンクールというのがあり、これにも参加できます。これらの仕事は委員により、順番制で行われるわけですが、最近、放送機械の老朽化が目立ち、故障が多発しています。多少聞き苦しいかもしれませんが、我慢して下さい。それから、只今、放送委員会では、やる気のある委員を募集しております。

これで放送委員会からの連絡をおわりにいたします。ピンポン。
K「ふうっ。つかれた。原稿読むのも楽じゃないな。そうだ、明日の朝会のマイクとマイクスタンドの用意してくれ。明日の当番は、マイクのセッティングたのむよ。」
このようにして、放送室の一日は終わるのであった。

※生徒会誌編集委員会

我が委員会は何ゆえ存在するのか、今、あなたがこうして、ひまつぶしに読んでいるこの本こそが、我々が数十名に及ぶ？努力の結晶がここに終結されたのである。ちょっとおおげさすぎたかな。まあ、それは、あなた自身がこの本のできばえを判断すればわかることだが。話のはがらりと変わるが、ここらへんで主な仕事の内容を紹介することにしよう。マンネリ化した学校行事・部活動の紹介・

生徒会&委員会の紹介といった三つの柱を中心に原稿を頼み、集めた原稿を見やすいように編集するといった仕事である。はたから見れば、楽な仕事だと思いでしようが、実際そうです。しかしながら、委員の協力性と計画性が多分に要求されるため、短期間ではなかなかしあがらないものなのです。そうこうしているうちに三学期にもちこされ、やっとあせりはじめるといった具合。そのためか仕事はたいへんに思えてくる。それでいて地味であり他の委員会よりも功績がないように思われがちである。そこで、疑問が生じてくる。いったいこの本は読まれているのだろうか？ と気になるものである。自分自身も、このようなマンネリ化した記事は改善した方がよいのではないかと思う。偶然にもこの文を読んでくれた君、内容的にもっと充実した会誌を作ってみる気はないか。



学校運営の委員会



※生活委員会

腕に輝く「委員腕章」一度は付けてみたいノ

生活委員会は活動がたいへんじみでハタで見ていたら活動しているかどうかはわからないくらいです。しかし考えてみて下さいませノ 高校というのは生徒があるからそこに立つのであり、その生徒のための生活委員会です。見なおしてみして下さいませんか。彼らは、文化祭では校門に出現し、校内においていたる所に存在し、体育祭では本部わきにあらわれる、縁の下の力持ちです。

高校生活と言えば、明るく楽しいものです。おしやれをしたい年頃でしょう。委員と言っても、同じ十五〜八の高校生です。気持ちはいたいほどわかります。はっきり言えば服装や何かでとやかく言っただけ束縛するのはまちがっていると思います。そこはがまんして気持ちだけ明るく華やかなものにしましょう。かなり身勝ってなことを書いてしまいました。一度、委員になってみませんかノ 気持ちひきしまり、遅刻もしなくなるものです。

腕章を付けて胸を張って歩きましょうノ

れば、円滑に活動ができるのではないかと思います。皆さん、どうか一ツ、ここで、北高の皆さんのために奮起してくれませんか。期待しています。

※保健委員会

健康の大切さ。それは一度失ってみて、はっきりと自覚されるのである。例外もいるかと思うが……。

日頃、健康を意識して生活している人は、どれくらいいるだろうか。若いうちは無理がきくと信じて、無理をしているのではないだろうか。そして、ついにそれを害してしまう。そんな時のオタスケマン。それが保健委員である。

しかし、健康をもとにもどすのは保健委員ではない。あくまでも自分自身なのである。そのところをしっかりと認知してもらいたい。

ところが、こんなにカッコのいいものが保健委員であるかどうか自分でもわからない(?)が、やはりはっきり言って保健委員というものはそんなものではない。活動は地味であり、春先にちよいと忙しくなるだけの委員会である。そして、クラスによっては目立ち、また目立たないものである。つまり、クラスの保健委員が目立つという事は、そのクラスは不幸な人が多いということである。しかし、そうであってはならない。各クラスの保健委員の活動を最少限におさえなければならぬのである。

結局、ズバリ言って保健委員というものは活動してはならないの



※図書委員会

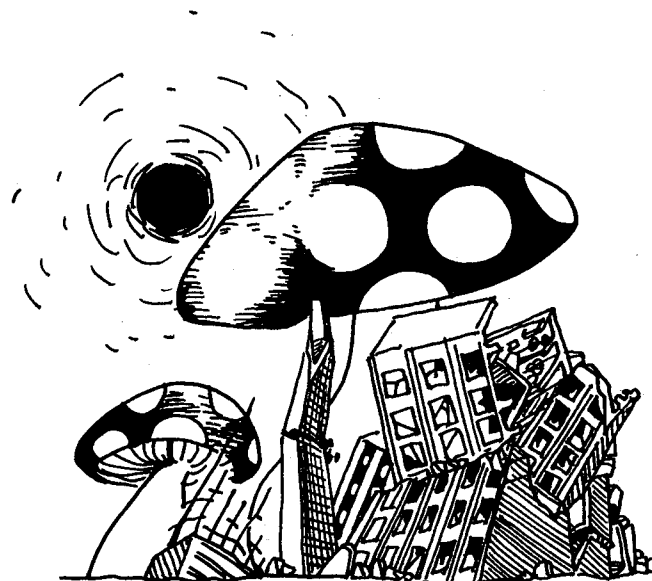
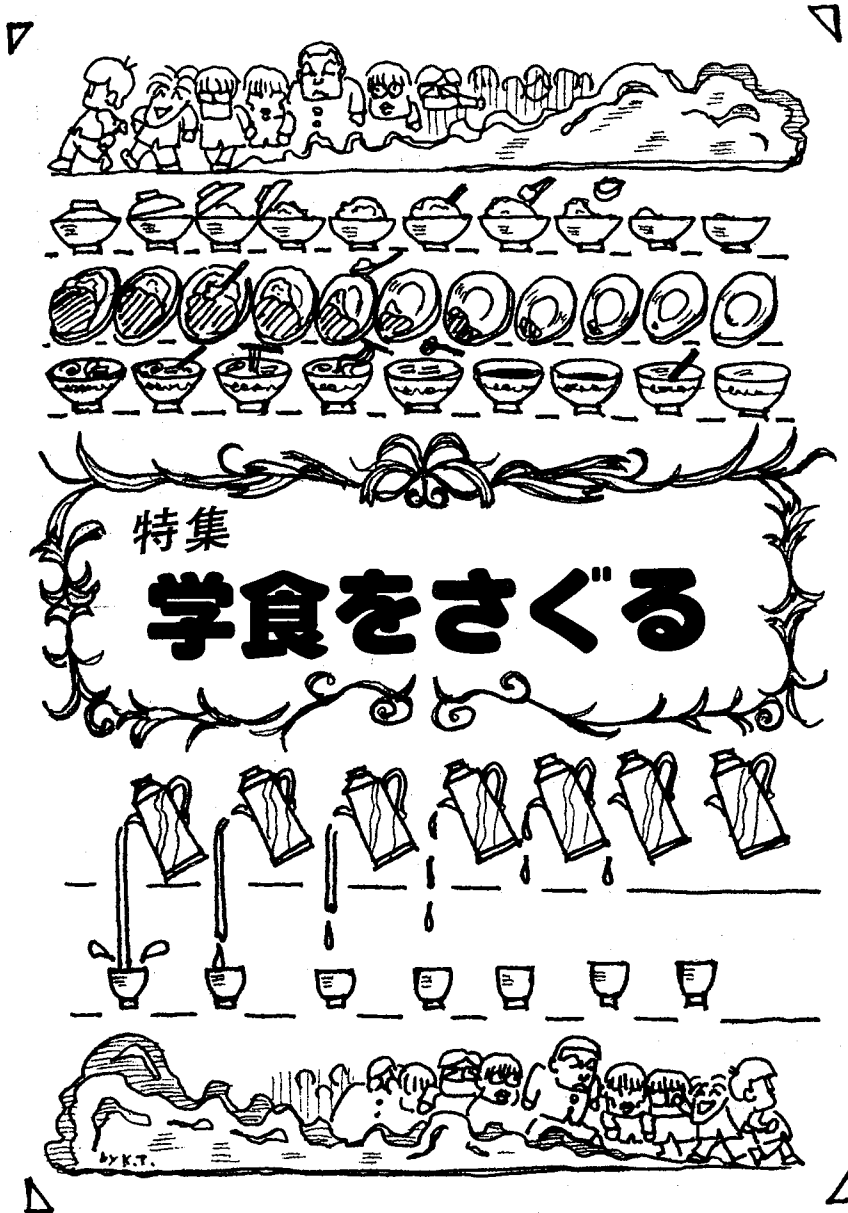
図書委員会の活動は、年を重ねるに従って、だんだん衰退していくような気がします。活動の目的は、北高の生徒諸君により多くの図書室の蔵書、また図書室を利用してもらう、前途有望なこれらの青年に必要な教養を身につけてもらう事にありまして、(少し固スギルカシラ?)当然の事ながら、如何にして生徒の皆さんの足を、HR棟から管理棟の四階の図書室に向けるかという事にあります。そしてこの対策としては、読書会の開催や、図書だより・図書館報の発行などを行っています。

ただ、ここで一つ困っている事があります。今の若い人達の中に見られる風潮なかもしれませんが、委員会活動に熱中してくる人がいない事です。受験勉強や部活の方が、大事なのかもしれません。折角委員が決まっても、図書室に図書委員の姿を見かけることがなくなりました。現在、私は三年生ですので、時折しか図書室に行かなくなりましたが、図書室へ足を踏み入れた時にカウンターにいるのは、いつも司書さんなのです。今年の一・二年生の委員の人は本当に活動しているのでしょうか。

図書委員の選び方を替えてみたらどうでしょうか。現在は、各クラスで一名ないし二名を必ず選出しなければなりません。その中には、やむを得ずに、なりたくもないのに委員を努めなければならぬという人達があります。(彼らは決まって無責任です。)図書委員の仕事に熱心してくれる人が、各学年から四・五人づつ出てくれ

である。少なくとも、そう願っている。というのは建て前で、その方がこちらとしては楽なのである。

こんな保健委員会、どうぞよろしく。



MENU

A ランチ 円 250	<ul style="list-style-type: none"> ○メンチカツ ○ポテトくしフライ ○マロン・グラタン風煮 ○コール・スロー ○つけもの ○味そ汁 	<ul style="list-style-type: none"> ○白身魚のカレー揚 ○キャベツともやし ○シェルサラダ ○つけもの ○すまし汁 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポークピカタ (野菜あんかけ) ○ビーフン・ソテー ○味そ汁
B ランチ 円 250	<ul style="list-style-type: none"> ○メキシカン・ライス ○コーンコロッケ ○ポタージュスープ 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャーハン ○ハムカツ ○ラーメンスープ 	<ul style="list-style-type: none"> ○あさりピラフ ○ハンペンフライ ○コンソメスープ
S ランチ 円 300	<ul style="list-style-type: none"> ○焼肉 ○サラダ ○スパゲティ ○フルーツ ○ライス ○味そ汁 	<ul style="list-style-type: none"> ○焼肉 ○サラダ ○スパゲティ ○ゼリー ○ライス ○味そ汁 	<ul style="list-style-type: none"> ○焼肉 ○サラダ ○スパゲティ ○フルーツ ○ライス ○味そ汁
め類 円 200	<ul style="list-style-type: none"> ○天ぷらうどん ○みそラーメン ○スパゲティ (ナポリ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○たぬきうどん ○みそラーメン ○スパゲティ (ミート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○天ぷらうどん ○焼そば ○スパゲティ (ナポリ)
単食 品	<ul style="list-style-type: none"> ○カレーライス 200円 ○肉どん 250円 	<ul style="list-style-type: none"> ○カレーライス ○卵どん 	<ul style="list-style-type: none"> ○カレーライス ○親子どん

学食についてのアンケート

S 57. 1. 18 現在

Q 1. あなたは学食をどの程度利用しますか。

イ 19%	ロ 33%	ハ 7%	ニ 35%	ホ 6%
----------	----------	---------	----------	---------

◎ イ まるでない ロ 週2回以上 ハ 週3回程度
ニ 週4回程度 ホ 週5回以上

Q 2. あなたが選ぶメニューのベスト3.

№1. Aランチ №2. Bランチ №3. カレーライス

Q 3. あなたが選ぶメニューのワースト3.

№1. 堅焼き №2. ラーメン №3. Sランチ

Q 4. 学食の営業時間について。

満足している 54%	満足していない 46%
---------------	----------------

◎満足していない理由 {

- 毎休み、放課後等も
- 授業が早くおわる時は、それに合わせて
- 先生だけ休み時間に食べるのは不公平だ

の具体例

<ul style="list-style-type: none"> ○コロッケ盛合せ (ミート・クリーム) ○白菜ときゅうりの油づけ ○つくだ煮 ○とき卵汁 	<ul style="list-style-type: none"> ○豚カツ ○ポテトサラダ ○コール・スロー ○つけもの ○味そ汁 	<ul style="list-style-type: none"> ○オムレツフライ ○シルバーサラダ ○ミックスポイルスロー ○つけもの ○ワカメスープ
<ul style="list-style-type: none"> ○えびフライ ○ポタージュスープ 	<ul style="list-style-type: none"> ○混ぜご飯 ○ウインナーくし揚 ○味そ汁 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドライカレー ○コーンサラダ ○ハムフリッター ○ワカメスープ
<ul style="list-style-type: none"> ○ハンバーグ ○ピラフ ○サラダ ○フレンチポテト ○ゼリー ○スープ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハンバーグ ○ピラフ ○サラダ ○フレンチポテト ○フルーツ ○スープ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハンバーグ ○ピラフ ○サラダ ○フレンチポテト ○ゼリー ○スープ
<ul style="list-style-type: none"> ○カレーうどん ○焼そば ○スパゲティ (ミート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○天ぷらうどん ○コーンラーメン ○スパゲティ (ナポリ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○カレーうどん ○コーンラーメン ○スパゲティ (ミート)
<ul style="list-style-type: none"> ○カレーライス 	<ul style="list-style-type: none"> ○カレーライス 	<ul style="list-style-type: none"> ○カレーライス

Q 5. 学食の値段について。

高い 35%	安い 3% 丁度よい 62%
-----------	----------------------

Q 6. 今ある以外で希望するメニュー。

寿司、ざるそば、うな重、グラタンなど

Q 7. パンの販売について何かどうぞ。

種類不足、パンの量をふやせ、高い、
休み時間も販売を など

Q 8. 飲み物の販売について。

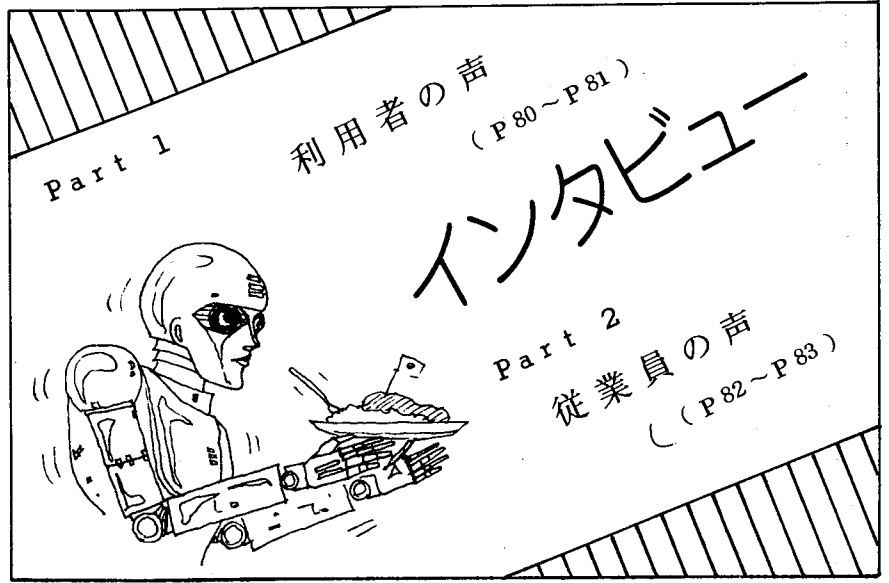
種類不足、ジュースを入れてほしい、ホットドリンクを売ってほしい、
容器がビンの安いものに など

Q 9. 食券販売機について。

こわれやすい、数を多く、十円が使えるよう、混む、
在庫を多くしろ など

Q 10. その他、学食についてありましたらどうぞ。

量が少ない、食堂がせまい、おばさんごろうさん、ランチのおかわり、
おいしくしろ など

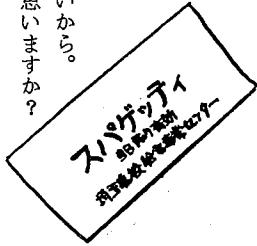


◆利用者の声◆

学食パン派

- Q…はいっ、えっとこの学食パンと、きどころ、パンを比べるとどうですか？
- A…ええ、きどころは売ってる人がやだからねっ、学食の方がいい……です。
- Q…何が一番おいしいですか？
- A…三色サンド。
- Q…値段についてはどう思いますか？
- A…値段ちようどいいと思いますあーす。
- Q…売っている時間についてはどう思いますか？
- A…休み時間も売って欲しいですっ。
- Q…学食のコーヒー牛乳&牛乳と荒川牛乳を比べてどう思いますか？
- A…えっとやっぱピンの方がいいと思いますっ。種類も多くて。ただ荒川じじいが、あのじじいがな、今一だったな。はは……
- Q…はいっ、えっとこの学食パンと、きどころ、パンを比べるとどうですか？
- A…そりゃあ、こっちの方がおいしいですね！
- Q…値段についてはどう思いますか？
- A…いんじゃん。調理パンだからこのくらいするんじゃん。
- Q…売っている時間についてはどう思いますか？

食券派



- A…もっと休み時間に売って欲しい。三時間目と四時間目の間に。
- Q…学食のコーヒー牛乳&牛乳と荒川牛乳を比べてどう思いますか？
- A…ちよっと種類が少ない。こは、不便な点ですねえ。はい。
- Q…値段は？
- A…昔は安かった。みんな五〇円だったもんね。
- Q…何で学食を利用するのですか？
- A…弁当を持って帰るのがめんどうくさいから。
- Q…量は多いと思いますか？ 少ないと思いますか？
- A…少なすぎる。
- Q…味はどうですか？
- A…まずい。
- Q…今までに一番多く食べたメニューは何ですか？
- A…スペシャルランチ。
- Q…最後に学食に対して何か？
- A…もっとおいしく。そうだな、安くして量を多く。
- * * *
- Q…学食の悪い点と良い点を言って下さい。
- A…良い点？ おいしいですね。お弁当いらなし。
- 悪い点？ 下品な人がいる。
- Q…学食を利用するとき苦労することは何ですか？

◆ 従業員の声 ◆

な、なんとカレーは

~~~~~ だったのだ！

Q…生徒の全体的印象を一人ずつおねがいします。

A…あの、明るくてとってもいいと思います。とくに男の子は規律正しいと言うのかしら。

A…うんとね、全体的にアレなの？ ~~~~ 全体的にはキザたらしいとかかな。 ~~~~ あのね、男の子と女の子がすぐく仲がよくて気持ちが良いですね。(笑)

Q…真面目だということ。

A…全体的にやっぱりみんな真面目な印象ですよ。それで、まあ我々仕事をやっていても、比較的やりやすい生徒さんばかりだなあって印象ですね。

A…そうですね、本当にそう思います。あの今の高校生としては比較のおとなしい。ただね一歩外に出るとね、その辺の角で、どうも立ち食いなんかしているのを見るとね。食堂のを食べてくれる生徒さんと同じなのかなあ、なんてことを感じることもあります。

Q…じゃ、それじゃ次の質問いきます。仕事上での苦労話とか失敗談なんかあったら、お願いします。

A…じゃあ中々ですすしねえ、お茶わんなんかもわたりたりして(笑)でも、楽しくけっこうやっております。

A…苦労話になるかどうかかわからないですけど、やはり我々は商売でやっているわけですからね、まあ、のぞむものを作ってい

るかというと、まだそこまでね、自信もってやっているかどうか

か私自身も私たちが考えるところなんですけども、やはり食数がなかなかつかめなかった日とかね。やはり、生徒さんが、残してね、そういったことがある場合、まあ、苦労話というよりも心配になってきますよね。やはり、みんながおいしいものを食べて、やっぱりよろこんでもらいたいという気持ちですから。

Q…じゃ、次の質問へいきます。北高の生徒に何か要求することがあったら言って下さい。

A…あのね、この食堂としての方ではね、今、八百食、いくかどうかでしょ、でもっと北高の生徒さんに利用していただきたいなと思います。

A…そうですね、やはりどんどん食べに来ていただきたいというのが、やはり要求というよりも、私たちの希望ですね、それから、みなさん真面目な生徒さんばかりだから、これから、もしこっちの会社としてもですね、いろいろ考えているのですけれども、みなさんの好むメニューをどんどん出したいと思っていますので、まあ、みなさんの希望もとり入れて、やっていきたいと思っています。

A…あの、食券なんかはあの早めに買っていただくと、たしかな数がわかって、下準備もすぐらくな時もありますので、なるべく食券は早い時間に買っていただくと互いに楽なんじゃないかなあと思います。

Q…じゃあ、次に一人に聞きたいんですけど、毎日のメニューというのはどうやって決めるのですか。

A…これはですね、私たちの会社が現在県立の学校だけで七校近く

やっているんですけどもね、各校統一されているメニューなんです

ですね。それは本社の方で一応、栄養士さんがおられて、栄養分析して、それで一応みなさんのメニューとして出しているわけです。まあ、本来ならば、各自学校の特色が出てもいいんですけど、今現在、そういうふうな方針でやっています。

Q…次に、生徒に好評なメニューを教えてください。

A…全体的にフライ物がみなさん好きなように思いますけど、それからハンバーグとかカレーなんかですね。

Q…えーと、じゃあ、逆にあんまり評判のよくないものとか、あと残ってしまうものはなんですか。それから、その残ったものはどう始末しているのですか。

A…そうですね、お野菜のにつけとかです。それと、ざんぱんでその日のうちにやはり処分するようにして、必ず新しいものを作るようにしていますね。

Q…えーと、カレーライスの残りはどうしているのですか。一部にはパンの中に入れるという噂があるんですけど、本当のところどうなんですか。

A…カレーライスはね、それは処分するっていうほど、ほとんど毎日、残りますよね。残りますけど、残っても別にわるくなったものじゃないですよ。加熱してやるものですから。パンの中にも実際入れていきます。入れてますけど、カレーパンはその方がおいしいんですよ。

Q…さしつかえなかったら、それぞれのメニューの原価を教えてください。さしつかえあるならいいですよ。

A…まあ、大体、原価というのはですね、二百五十円のものでした

らやはり五十%ですね。

Q…えーと、米は一日どのくらい消費しますか。

A…七十kg位ですね。

Q…えーと、では次に今度値上げする予定はありますか？

A…それは、まだ、こっちの方の本部社の方から指令がでてないの値上げするのか、値上げしないかっていうのはまだ具体的には言えませんがね。

Q…それでは最後の質問ですけど、ご自分の頃の食生活と今の食生活と比較してどう思いますか、一人ずつお願いします。

A…やっぱり、私たちの頃と今では思想的には同じじゃないかしら、高校生としては私たちの頃よりも、今のほうが豊富というか、いろんな種類のものが出回っていると思いますね。

A…今の時代はね、あの、物があればじゃなくて、おいしいものがないと食べていただけなんですので、研究しておいしいメニューを出すようにしています。

A…そうですね、大体、思考自体がだんだん違ってきていると思います。やはり、われわれが高校生だった時代と今の高校生のなると言うんですかね、ま、せいたくですよ。そういうった面ではぐまれまするんじゃないかなって気がします。

Q…私もそのように思います。じゃ、これで質問は終了です。どうも協力ありがとうございました。



編集後記

例によって、生徒会誌「しらこぼと」を発刊する運びに至った現在、我々編集委員一同は、誰もみな、満足感というより安心感にひたっているにちがいない。というのも、今回をもって、4号目をむかえるこの会誌は、一年間をしめくくる上での常連のものになりつつあったか、この会誌に多少なりとも期待をよせる者の中にはいることだろう。ちなみに、こうして書いている私も、昨年はその中のひとりでした。そういった重荷が、我々の上に課せられて、約半年の間、苦しめられてきました。

こうして苦勞してでき上がった会誌を、できるだけ多くの人に読んでもらえることを願ってやみません。最後に、原稿を寄せてくださった方々、不慣れなインタビューに協力してくださった方々、前田印刷の方々に、この場を借りて、お礼にかえさせて頂きたいと思えます。

—委員長記—



ほやき

\* 原稿の依頼が楽しかった。とにかく終わって嬉しい！

(A班・S)

\* 肩こった。

(T・S)

\* 原稿料よこせ！

(KOTSU)

\* この会誌の完成は奇跡以外の何ものでもあれへん。今年の冬は、つらかった。

(妖怪・冷奴)

\* 生徒会誌「しらこぼと」第四号完成おめでとうございます。

(さばりの一編集委員こと文芸部部長)

\* おかげで風邪をこじらしてもた。

(T・K)

編集委員

委員長 新井清孝  
副委員長 河野岳彦

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 堀越 英一 | 鈴木 広法 | 小沢菜穂子 | 菅谷登美子 |
| 岩上 朋和 | 佐藤 桂治 | 川村 忠道 | 岡村恵美子 |
| 堀切 功  | 桑 聖子  | 坂入 剛  | 鈴木 智雄 |
| 町田 憲之 | 飯塚 康一 | 市橋 緑  | 永野 智美 |
| 小山 克徳 | 角 広一  | 原田 典代 | 才田 広美 |
| 北川 芳博 | 太田 徹  | 日比野浩二 | 高橋 康一 |
| 佐藤久久志 | 白井 武士 | 中台 光孝 | 石川 昌代 |
| 水沼 剛二 | 菅 隆之  | 増子 降二 |       |

顧問 茂原喜和治

しらこぼと第4号【非売品】

昭和57年3月5日印刷  
昭和57年3月10日発行

<編集者> 生徒会誌編集委員会  
<発行者> 埼玉県立越谷北高等学校生徒会  
埼玉県越谷市大泊500-1  
TEL (0489) 74-0793  
<印刷所> 前田印刷株式会社  
埼玉県岩槻市東町2丁目4番1号  
TEL (0487) 58-0011(代)

